

(令和7年度岩手県ひとにやさしいまちづくり推進協議会 資料)

まちづくりユニバーサルデザインガイドラインの改定について

令和8年1月20日（火）

岩手県 県土整備部 建築住宅課

I	はじめに	
	まちづくりユニバーサルデザインガイドラインとは	・・・ 03
	いわての事情	・・・ 05
	ガイドラインの構成と見方	・・・ 07
	ユニバーサルデザインの7つの原則	・・・ 09
II	単位空間等の設計	
	1 建築物におけるユニバーサルデザイン（単位空間等の設計）	
	1-1 移動空間	
	敷地内通路	・・・ 11
	駐車場	・・・ 15
	建築物の出入口	・・・ 19
	屋内の通路	・・・ 23
	階段	・・・ 27
	エレベーター	・・・ 31
	案内表示	・・・ 35
	視覚障がい者誘導ブロック等・音声等による誘導設備	・・・ 39
	1-2 利用空間	
	利用居室の出入口	・・・ 43
	便所・洗面所	・・・ 47
	客室	・・・ 53
	浴室・シャワー室	・・・ 57
	脱衣室、更衣室	・・・ 59
	劇場、競技場	・・・ 61
	店舗内部	・・・ 65
	ベビー休憩室	・・・ 69
	避難施設・設備	・・・ 71
	2 道路のユニバーサルデザイン	
	歩道	・・・ 75
	立体横断施設	・・・ 77
	3 公園のユニバーサルデザイン	
	公園	・・・ 79
III	当事者参画のための手法	
	基本原則・企画	・・・ 83
	準備・運営	・・・ 85
IV	資料	
	用語集	・・・ 87
	シンボルマーク	・・・ 89
	写真の出版	・・・ 91



ひとにやさしいまちづくり
シンボルマーク

ひとにやさしいまちづくりシンボルマーク
「人」が楽しそうに街を歩いている姿とハートで、すべての人が自由に歩ける「やさしい街」を表現しています。「人」は「Iwate」の頭文字を意味しています。

音声コード Uni-Voice（右下のコード）
このコードは、視覚に障がいのある人への情報提供を目的につくられた「音声コード」です。専用の読み上げ装置やスマートフォンアプリで書いてある内容を音声で聞くことが出来ます。

音声
コード

音声
コード

「まちづくりユニバーサルデザインガイドラインとは」

岩手県はひとにやさしいまちづくりへの県民全体の参画により、全ての人が、個人として尊重され、自らの意思に基づき自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される地域共生社会を目指す取り組みを進めています。そのためには、誰もが安全で快適に利用できる生活環境や社会環境を整えていくことが大切です。

このガイドラインは、そんな「ひとにやさしいまちづくり」を実現するために、建築主・利用者・設計者など多くの県民に向けて、施設整備の意義、設計のポイントなどをわかりやすく紹介するものです。より詳しい設計については、国が定めた設計標準について参照できるようにしています。

なお、本書は、法令で定められた設計基準ではなく、ユニバーサルデザインに基づいた理想的なまちづくりの一例を示しています。そのため、ガイドラインを満たしていないからといって整備できないわけではありません。しかし、県民一人ひとりが年齢・性別・障がいの有無にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる環境をつくるため工夫を重ねていくことは、とても重要なことです。

県の条例

ひとにやさしいまちづくり条例

推進指針

推進の基本的視点

- 多様な利用者の参画促進及び対話のプロセスの重視
- 取組の発展的推進
- さりげないデザインへの配慮
- 柔軟で持続可能な取組

事前協議（整備基準）

まちづくりユニバーサルデザインガイドライン

県民総参加による協働



全てのひとにやさしいまちづくりの実現



建築設計標準

法令に基づく基準

建築物移動等円滑化基準（最低限のレベル）

建築物移動等円滑化基準に相当する整備内容

設計例・設計手法・事例

建築設計標準（本編）

建築物移動等円滑化基準（望ましいレベル）

建築物移動等円滑化誘導基準に相当する整備内容

標準的な整備内容

当事者参画ガイドライン（別冊）

基本原則
留意事項
各段階における実施内容

「今回の改訂の背景と目的」

近年の社会情勢の変化や価値観の多様化により、まちづくりに求められる視点も大きく変化しています。特に、ジェンダー、年齢、文化的背景などの違いを尊重し、全ての人が共に暮らせるインクルーシブな社会づくりへの関心が高まっています。

2024 年 4 月には改正障害者差別解消法が施行され、事業者による「合理的配慮」の提供が法的義務となりました。障がいのある人もない人も分け隔てなく暮らせる共生社会の実現に向けた取り組みが、全国的に進められています。

また、2025 年にはバリアフリー法の基準が改正され、トイレや駐車場、劇場等の客席に関する整備基準が強化されました。これらは、まちづくりにおいても「誰もが特別扱いされず、無理なく自然に利用できる社会環境」の整備が求められていることを示しています。

岩手県はひとにやさしいまちづくり推進指針を令和7年3月に改訂し、「インターセクショナルリティ」の観点、「建設的対話」の実施、「当事者参画」を重視し進めていくこととしています。

今回のガイドライン改訂ではこれらの考え方を踏まえ、「全ての人が安全かつ円滑に移動でき、快適に過ごすことができる『まちづくり』」の実現に向け、不特定多数の人が利用する施設について、最新の知見を反映した望ましい施設整備の在り方を示すよう見直すものです。

これにより、ユニバーサルデザインの視点からの施設整備の基本的な考え方と、その実現に向けた具体的なポイントを、よりわかりやすく示すことを目的としています。

「岩手県ひとにやさしいまちづくり推進指針」

目指す姿

ひとにやさしいまちづくりへの県民全体の参画により、全ての人が、個人として尊重され、自らの意思に基づき自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される地域共生社会

〈基本的な視点〉

- 多様な利用者の参画促進及び対話のプロセスの重視
- 取組の発展的推進（終わりなき取組）
- さりげないデザインへの配慮
- 柔軟で持続可能な取組

音声コード

【技術的基準 参考文献】
ひとにやさしいまちづくり推進指針（2025～2029）



音声コード

いわての事情



(岩手県民へのアンケート調査等より)
ユニバーサルデザインという言葉は広く認知されていくことがわかります。また、町の中でバリア(障壁)を感じる割合が増えており、その必要性が認知され、関心が高まっていることが窺われます。
特にトイレや移動経路の段差等に関心が多く、また、車いす使用者用駐車区画の利用について理解の促進も必要と考えられます。

はじめに

建築物 移動空間

建築物 利用空間

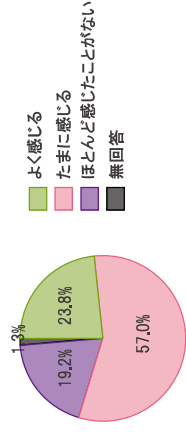
道路

市街地

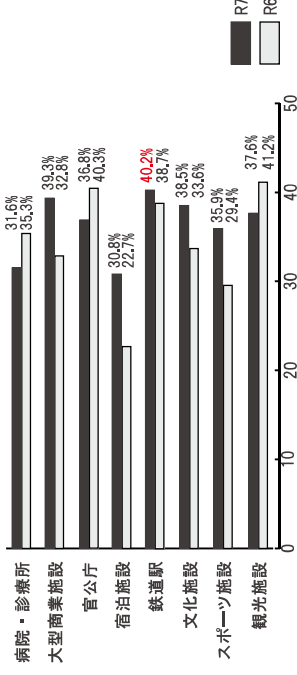
当事者参加

いわての事情

Q.まちの中でバリア(障壁)を感じることは?



Q.町の中でバリア(障壁)を感じた施設は?

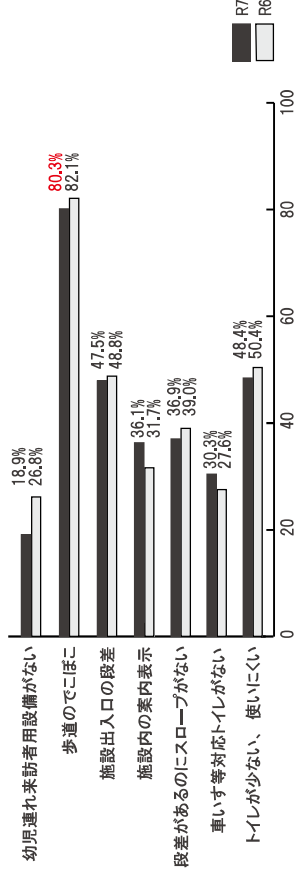


Q.ユニバーサルデザインってなあに?

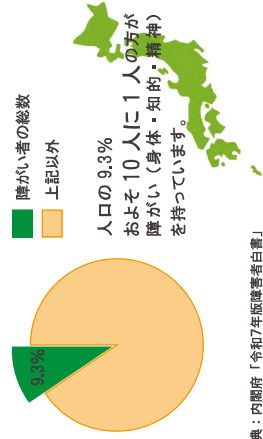


出典：令和7年度 希望郷いわてモニターアンケート
「ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果」

Q.まちの中でバリア(障壁)を感じるのどのようなこと?



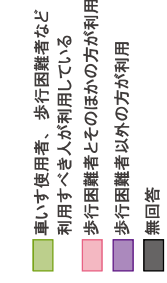
Q.障がい者はどのくらいいるの?



人口の9.3%
およそ10人に1人の方が
障がい(身体・知的・精神)
を持っています。

出典：内閣府「令和7年版障害者白書」

Q.車いす使用者用駐車区画を利用しているひとは?



Q.車いす使用者用駐車区画が正しく利用されるために必要なことは?



この駐車区画はひとにやさしい
駐車スペースをお持ちの方が利用
できます。

音声
コード

【技術的基準 参考文献】
令和7年度 第4回 希望郷いわてモニターアンケート
ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

音声
コード

「バリアフリー」「インクルーシブ」は「ユニバーサル」となが違うの？

- 意味** 最初から「誰でも使いやすい」ようにデザインする考え方。
- 特徴** 年齢、障がいのある無に関係なく、全ての人が同じものを使えるようにする。
- 例** 段差のない入口、分かりやすいピクトグラム、音声案内と文字案内の両方。

ユニバーサルデザイン

- 意味** 今ある「障壁（バリア）」を取り除くこと。
- 特徴** 障がいのある人やお年寄りを使いにくい部分を改善し、使えるようにする。
- 例** 階段にスロープを追加、手すりを設置、エレベーターを後から設置。

バリアフリーデザイン

- 意味** 「多様な人を包み込む」デザイン。利用者の多様性を前提に、参加型で設計する。
- 特徴** 障がいのある人やお年寄りなど、さまざまな人の意見を取り入れて設計するプロセス重視。
- 例** 計画・設計段階で車いす使用者や視覚に障がいのある人等にヒアリングして、レイアウトやつらえを計画する。

インクルーシブデザイン

ガイドラインの見方

みんなが使いやすい環境をつくるためのユニバーサルデザインの基本的な考え方をポイント毎にまとめた上で、モデル事例や具体的な整備方法、事例写真などを示しています。

ガイドラインの構成と見方

①施設整備の考え方

みんなが使いやすい環境をつくるためのユニバーサルデザインの基本的な考え方をポイント毎に整理。

②実際に困ったこと

ガイドラインを作成するにあたって、お年寄り・障がいのある人から得られた様々な声や経験を紹介。

③基本的な整備内容
理想的な整備をするための具体的な方法を紹介。

④優良事例

岩手県内の事例や国内の先進的な取組を紹介。

⑤ホンネ（コラム）

お年寄りや障がいのある人が実際に体験したこと、実際の声やエピソードを紹介。

⑥参考文献

ガイドラインを作成するにあたって、参考にした国等の資料を掲載。

施設整備

1 みんなが使いやすいエレベーターとは？

2 実際に困ったこと

3 基本的な整備内容

4 優良事例

施設利用

5 わかりやすく乗りやすい場所にあるエレベーター

6 ホンネ（コラム）

施設整備

1 みんなが使いやすいエレベーターとは？

2 実際に困ったこと

3 基本的な整備内容

4 優良事例

施設利用

5 わかりやすく乗りやすい場所にあるエレベーター

6 ホンネ（コラム）

ユニバーサルデザインの

7つの原則

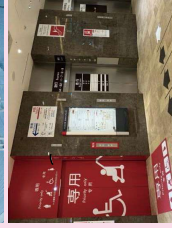
ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、国籍、障がいの有無等にかかわらず、全ての人が「個」として尊重され、利用できるように、デザインしていくという考え方をいいます。「みんなのためのデザイン」とも呼ばれています。



原則 1

公平に使用できること

誰にでも使用しやすいこと



スロープが併設されたエントランス。

車いすの人やベビーカーを使っている人が気がねなく利用できるエレベーター。

原則 2

使う上で、柔軟性があること

個々の好みや能力に応じて、使えること



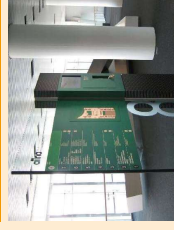
大人も、子どもも無理なく使えるために選べる二段手すり。

利用者が移動手段を選択しやすいよう、エレベーター、エスカレーター、階段がまとめられている。

原則 3

簡単ですぐ使えること

使う人の経験、知識、言語能力、集中力の程度に関係なく、わかりやすく使えること



文字・音声・点字により複数の感覚に訴える誰かがわかりやすい案内サイン。

言葉による説明がなくても直観的に理解ができる絵文字。(ピクトグラム)

原則 5

エラーに対する許容性があること

思いがけず、意図しない行動によって起こされる危険を最小限にすること



トイレ内の上部に設けられた非常警報装置。(フラッシュライト)

段差を認識しやすいようコントラストを付けた階段。

原則 6

労力が少なくて済むこと

肉体的疲労が最小限に抑えられ、効率よく、楽に使えるようにすること



動作がシンプルで、少ない力でも開閉できる押しボタン式引き戸。

連続した手すり。

原則 7

近づきやすく、使用しやすい、大きさと空間であること

使う人の体格、姿勢、運動能力に関係なく、近づきやすく、操作しやすい大きさや空間にすること



車いすの人や介助が必要な人が、使いやすいよう大型ペッドを備えた広いトイレ。

誰もが楽に通ることができる通路。

音声コード

【技術的基準 参考文献】

ひとにやさしいまちづくり推進指針(2025～2029)P8

音声コード

みんなが歩きやすい通路って？

安全で スムーズに 移動できる

- ≫ 敷地の外の道や駐車場から建物の出入口、建物の部屋まで、切れ目なく安全にスムーズに移動できる。
- ≫ 移動に困難がある人でも、つまずいたり、迷ったりせず、無理をなくとも行きたいところに行ける。
- ≫ 雨の日や夜も安全に利用することができる。

誰でも 同じルート を通れる

- ≫ ユニバーサルデザインは最初から誰もが使いやすいように設計するという考え方。
- ≫ 誰もが同じルートを使うことで、「特別な経路」がなくなり、みんなが同じく社会に参加することにつながる。
- ≫ 経路が統一されると、安全確保や管理するうえでも効果的。

バリアは、設備を整備しただけでは解消できません。一人ひとりが相手の立場に立って行動することで、差別や偏見のない社会が実現できます。

無関心はやめ、一緒に考えましょう。

設備を整えるだけではなく、私たちの言葉や行動、思い込みなどが「心のバリア」を作ってしまうことがあります。たとえば、困っている人に気づいても声をかけない「無関心」もバリアの一つです。障がいのある人も、体調が悪いつきの私たちと同じように、助けを求めたいけれど言い出せないことがあります。だからこそ、相手の立場になって考え、行動することが大切です。思いやりのある行動が、バリアをなくす第一歩になります。

バリアを感じている人の
身になって考えてみよう!!



音声
コード

音声
コード

はじめに

建築物
移動空間

建築物
利用空間

道路

市街地

当事者参画

敷地内通路

歩いていて
困ったことは？

- 1 マンホールが段差になっていると、つまづいてころんでしまう危険があるので、通路上にマンホールは設置しないでほしい。
- 2 車いすやベビーカー、松葉杖を使っていると傘がさせない。
- 3 排水溝の蓋などに杖や車いすのキャスターやヒールがはさまってしまう。
- 4 北側の日陰となる通路は、冬期間、雪が溶けず凍っているため、滑って転んでしまいそうであるのが怖い。

こうして

解決！

1

空間の確保
安全性

安全でスムーズに移動できる

- 1 歩行者と車が交差しないように通路をつくる。やむを得ず交差する場合、歩行者用通路には、視覚障がい者用誘導標識を設置し、見通しをよくする。
- 2 路面が濡れたり、凍ったりして転倒しないよう、また、傘をさせない人が、濡れずに通れるよう、屋根の設置や通行ルートを工夫する。
- 3 視覚に障がいがある人が衝突したり、車いす、ベビーカーやシルバーカーを使っている人が通りにくいことがないよう、通路には車止めを設置しない。
- 4 通路に雪を置かないよう、敷地内に雪捨て場を設け、溶け出した雪が通路に入ってから路面が凍らないよう排水処理する。



車いすのキャスターや杖が落ちない排水溝
段差がなく、隙間が細かい蓋を使った排水溝。



通路の上屋と誘導ブロックの設置
屋根付き通路と、舗装面との色の違いに配慮し、連続して敷設した視覚障がい者用誘導ブロック。

【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
2章 単位空間等の設計//1.敷地内通路P29～

ルート上で
困ったことは？

- 1 階段があって、車いすやベビーカーでは通行できない場所がどこか、事前に知りたい。
- 2 表示板が高い位置にあり、近づいて内容を確認することが難しい。
- 3 広い空間では、どこを歩けば良いか、どの方向へ進めばよいかわからず迷ってしまう。
- 4 家族や友人、介助者などと並んで会話をしながら安心して歩きたい。

2
案内表示



こうして 解決！

誰でも同じルートを通れる

- 1 建物の配置、出入口・エレベーター・トイレ・駐車場の位置がわかる表示板を設置しピクトグラムや点字、音声などを組み合わせ、みんながわかりやすいものとする。
- 2 表示板は、目線の低い人が見上げる角度が小さくなるように、また、視覚に障がいのある人が近づいて内容を確認できるよう、高さや位置に配慮する。
- 3 道路の歩道から敷地内の通路まで、視覚に障がいのある人が目的地へ迷わず、目的の場所まで移動できるよう、途切れの無い誘導ブロックを敷く。
- 4 通路は、段差がないこと、または、スロープが設置されていることに加え、車いすやベビーカーを使用する人も同伴者と並んで通行ができる広さとする。



ピクトグラムを用いた案内板

出入口やエレベーター、バリアフリートイレの位置をピクトグラムで表示している。



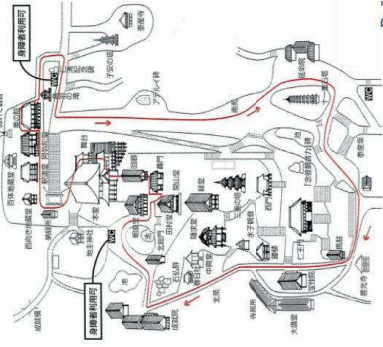
出入口（本堂）の傾斜路

出入口の階段の脇には傾斜路が併設されている。



音声
コード

音羽山清水寺（京都府京都市）



車いすの人のための境内参拝マップ

マップはホームページからダウンロードでき、境内・轟門でも配布。

善光寺（長野県長野市）



車いすで参拝しやすいルートマップ

マップは、ホームページからダウンロードでき、境内の主な参道のほとんども車いす移動できる。

【技術的基準 参考文庫】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
2章 単位空間等の設計//1.敷地内通路P29～

敷地内通路



境内の車いす用舗装部



音羽の滝付近の参拝路

従前は、階段が多く段差が解消されていなかったが、景観を損ねることなく参拝路をスロープ化することで、境内を一周できる段差のない参拝ルートを整備。

千体石仏群の前の車いす用舗装

参拝ルートのいろんな通路にベンチがあって休憩しながら自分のペースで参拝できるよう配慮されているよ！



本堂東側スロープ

本堂と違和感のないデザインのスロープで、車いすのまま本堂に入ることができる。



本堂に設けられたスロープ



音声
コード

安心して使える駐車場って？

安全で スムーズに 駐車できる

- ≫ 駐車区画や優先駐車区画の表示がわかりやすいと、スムーズな利用につながる。
- ≫ 歩行者と車の動線が交差しにくいようにすることで、安全性が高まる。
- ≫ 車の後部ドアから乗り降りする人もいるので、十分なスペースが確保されているとスムーズに利用できる。

乗り降りの 大変な人でも 使いやすい

- ≫ お年寄りや障がいのある人にとって、自動車は外出や社会参加のための有効な手段。
- ≫ 車いす使用者用駐車区画と別にお年寄り、妊婦、乳幼児連れや、けが人等のための優先駐車区画があると必要な人に必要な設備が行き届く。

天気の 悪い日にも 使いやすい

- ≫ 乗り降りに時間がかかる状態の人にとっては、雨風の日は、ひさしのある駐車場や出入口に近い駐車区画が使いやすい。
- ≫ 夜間の利用者の安全確保の必要。

車いす利用での 困りにとって？

- 1 路面に雪があって、車いす使用者用駐車区画の場所がわからない。
- 2 車いすだと、停まっている車にかくれてしまい、走ってきた車に気づかれにくい。
- 3 換するためのスペースもない。

1 歩車分離

こうして

解決！

安全でスムーズに駐車できる

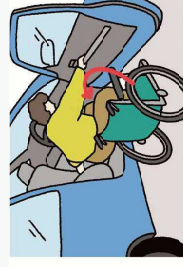
- 1 車いす使用者用駐車区画は、利用対象者がハッキリわかるように、絵と大きな文字で運転席から直視的にわかるように表示し、積雪時にも配慮した高さとする。
- 2 車いす使用者用駐車区画は、建物出入口近くへ設け、車路を横断しないで利用できるようにする。
- 3 スロープ・リフトの出る車両の利用を考慮し、後部ドアからのスロープ・リフトによる乗降が可能な車寄せ・空間を施設出入口付近に設置する。
- 4 車いす使用者用駐車区画は、車のドアを全開にしても、隣の車にドアがぶつからない広さをつくる。
- 5 駐車区画内は、水たまりがでにくい形状とし、区画線は濡れても滑りにくい仕上とする。

＜車いすの人の車の乗り降りのイメージ＞

①車のドアを全開にする。



②車いすから車の座席に乗り移る。



③車いすを車にしまう。



【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計//2.駐車場P36～

【出典先：国土交通省 / 高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準】

音声
コード

音声
コード

何で
使えないの？

- 1 駐車区画が狭く、ベビーカーを車の横に置いたまま、赤や
んを乗り降りさせることが大変。
- 2 車いす使用者用駐車区画が少なく、使いたいときに使えない。
- 3 車いす使用者用駐車区画はあるが、ゼブラゾーン（乗降スベ
ース）に車を停めている等によって、安全に乗降できない。

2

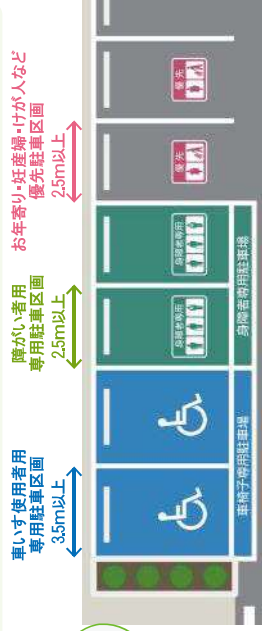
多様な利用者
への配慮

こうして 解決！

乗り降りの大変な人でも使いやすい

- 1 お年寄り、妊産婦、乳幼児連れ（ベビーカー）、けが人等、広い駐車区画を必ずし
も必要としないものの、移動に配慮が必要な人のための優先駐車区画をつくる。
- 2 車いす使用者用駐車区画の舗装面には、青色の地に白色のマーク等の目立つ
塗装により国際シンボルマークを表示する。
- 3 車いす使用者用駐車区画と優先駐車区画は複数設置し、不適正利用を防止す
るために、表示板（標識）は目立つものとする。

優先利用できる人には
「利用証」を発行しても
らえるんだね！



積雪時でも見える表示板



〔出典先：国土交通省／パーキング・パフォーマンステスト事例集〕

音声
コード

ちやうどしやう
駐車場

雨や雪の日の
困りごとってなあに？

- 1 車いすだと雨の日に傘をさすことが大変で、車の乗り降りに
時間がかかってしまうと、ずぶぬれになってしまう。
- 2 車いすの人を乗せた車（リフト付き福祉車両）から、車いすのま
ま降りられない。
- 3 出入口が遠くて、移動中に雨にあたってしまう。

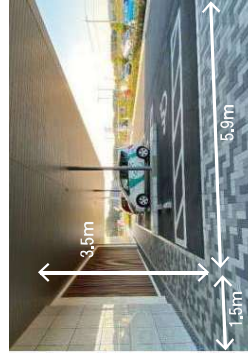
3

駐車環境

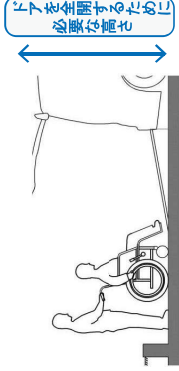
こうして 解決！

天気の良い時でも使いやすい

- 1 屋外の車いす使用者用駐車区画や優先駐車区画には、雨天時でも安全かつ快適
に乗降できるよう、屋根または庇を設ける。
- 2 屋根又は庇を設ける場合、あるいは屋内の場合は、大型の車いす用リフト付き
福祉車両等の車両高さに対応した有効高さ（梁下高さ等）を確保する。
- 3 屋内駐車場の場合、車いす使用者用駐車区画は、エレベーターホールに近い出
入口付近に設ける。



乗降のためのスペース



【技術的基準 参考文獻】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計//2.駐車場P36～

音声
コード

誰でも出入りしやすい出入口って？

外から見えやすく、入りやすい

出入口の位置や表示の工夫によって、道路、敷地外、駐車場から、わかりやすく迷わず入れる。

誰もが同じ出入口を通り、「特別な経路」が不要となることは、誰もが同じく社会に参加することにつながる。

誰かが通りやすい

十分な幅を確保し、開け閉めしやすい構造でスムーズに通れる。

緊急時にも迷わず、速やかに避難できる。

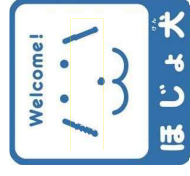
入口で必要な情報や支援が得られる

入ってすぐの場所に、案内所や案内表示があることで、施設の情報が入りやすく把握できる。

案内所などがあると、わからないことを聞くことができ、必要な支援や情報を円滑に受け取ることができる。

出入口の目立つところに表示しましょう！

目の不自由な方の歩行のサポートをする「盲導犬」、身体の不自由な方の生活のサポートをする「介助犬」、耳の不自由な方に音を知らせる「聴導犬」の3種類の犬を補助犬といい、不特定多数の人が出入りする施設に、補助犬同伴の受け入れが義務付けられています。



音声
コード

音声
コード

はじめに

建築物
移動空間

建築物
利用空間

道路

市街地

当事者参加

建築物の出入口

出入口での
困りこと？

- 1 出入口の位置や出入口へ至る案内表示の設置場所が、敷地の入口からではわかりにくく、初めて訪れる人が迷ってしまう。
- 2 風除室内のスペースが狭いため、同伴者と並んで出入口を通ることができない。
- 3 ドアのもつこうが見えなくて、ドアを開けたら子どもが飛び出してきて、ぶつかりそうになった。
- 4 出入口でサポートをお願いしたくても、誰も気づいてくれない。

こうして

解決！

1
空間の確保
しつらえ

外から見えやすく、入りやすい

- 1 インターホンを設ける場合、道等からインターホンの前まで、視覚障がい者用誘導用ブロック等あるいは音声等による誘導を行う。
- 2 出入口の前後や風除室の両側にある戸の間隔は、車いす使用者が直進でき、待機や方向転回するのに充分な広さとする。
- 3 誘導ブロックは、道・出入口から連続して敷設し、出入口のドアや玄関マット、音声案内の手前や受付カウンターには、この場所を知らせるため点状ブロック等を設ける。
- 4 ドアやその周辺は、ドアの反対側の様子がわかるようにし、ガラス戸とする場合は、衝突を防止するため、子どもの目の高さ、大人の目の高さに横桎等の目印を入れる。



ガラス張りの複合施設

分かりやすい玄関と、ガラスを通して中の様子がうかがえる、親しみやすい出入口。



【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/3.建築物の出入口 P46～

音声
コード

音声
コード

はじめに

建築物
移動空間

建築物
利用空間

道路

市街地

当事者参加

スムーズに通過できない
出入口って？

- 1 体力の衰えとともに手の力が弱くなってきて、ドアが重いと開け開きが大変。
- 2 毛足が長いマットは、車いすのタイヤが沈んでしまい通りにくい。
ゆっくるとしか歩けないので、歩いている途中にドアが開まってしまうとこわい。
- 3

2

円滑な通行
安全性

誰もが通しやすい

解決！

こうして

- 1 ドアは感知式の自動式引き戸とし、ドアの開閉速度を設定できるものとし、ドアの前後は段差がなく、車いすの人がスムーズに通れる広さとする。
- 2 車いすの人が通しやすいように、玄関のマットは埋め込み式とし、毛がふさふさしたものは使わない。また、杖先を引けたりしないよう、しっかりと端部を固定する。
- 3 お年寄りや、障がいのある人等がドアに挟まれないよう、ドア枠に安全装置を設置する。
- 4 非常事態であることを速やかに伝達できるよう、避難経路の案内表示や誘導用設備は、年齢、国籍、障がい特性に関わらず、全ての利用者がわかりやすいものとする。



広い風除室と埋め込み式玄関マット
風除室全面に埋め込み式で固定されているので、ズレ・たるみがでにくく、つまずきや転倒のリスクを低減できる。



凹凸のない広い通路と衝突安全対策
視覚に障がいのある人やお年寄り、子どもなどがガラスの存在に気づきやすくなり、事故を防ぐことができ、安心して出入りできる。

建築物の出入口

- 1 どこで、どうやって支援を頼んで良いかわからない。
- 2 どのような支援をしてもらえるのか、可能な支援がわからない。
- 3 案内表示が見つけにくく、建物内の様子がわかりにくい。

入ったはいいけど
・・・？

3

わかりやすい
必要な支援

必要な情報や支援が得やすい

解決！

こうして

- 1 お年寄り、障がいのある人等の移動支援や案内・誘導等、人による支援ができるよう、出入口の近くに案内所・受付カウンターを設置する。
- 2 建物の出入口に設ける案内板は、文字、図記号（ピクトグラム）や図、音声、触知図を組み合わせたものとし、近づいて確認が出来るようにする。
- 3 案内所・受付カウンターに、筆談ボード、タブレット端末等を常備し、支援ができるという意味のマーク（耳マーク、手話マーク・筆談マーク等）を設置する。
- 4 誘導ブロックは、道や出入口から途切れなく敷設し、受付やインターホンの前など、必要な場所には点状ブロックや音声案内を設けて、視覚に障がいがある人が迷わず移動できるようにする。



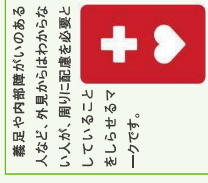
▲遠くからでもどこに行けば良いかわかる。 ▲ローカウンター



▲タブレット



▲耳マーク、支援の依頼



着足や内服障がいのある人など、外見からはわからない人が、周りに配慮を必要とされていることをしらせるマークです。



白杖を頭上に掲げてSOSのシグナルを示している視覚に障がいのある人を見かけたら、進んで声をかけて支援しようという「白杖SOSシグナル」運動の普及啓発シンボルマークです。（岐阜市）

音声
コード

【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/3.建築物の出入口 P46～

音声
コード

みんなが移動しやすい通路って？

安全で スムーズに 移動できる

- 建物流出入口から目的の室まで、また、使用している室からトイレまで、切れ目なく安全にスムーズに移動できる。
- 移動に困難がある人でも、つまずいたり、迷ったりせず、無理をしなくても行きたいところに行ける。
- 非常時にも速やかに避難できる。

誰でも 同じルート を通れる

- ユニバーサルデザインは最初から誰もが使いやすいように設計するという考え方。
- 誰もが同じルートを使うことで、「特別な経路」がなくなり、みんなが同じく社会に参加することにつながる。
- 経路が統一されると、安全確保や管理するうえでも効果的。

白杖を持っている人や困っている人を見かけたら、

「何かお手伝いしましょうか？」と声を掛けてみましょう！



あわてずに、「ハッキリ」と、「ゆっくり」、「ていねいに」、相手のペースにあわせて、「何回かくり返して話す」。

あと何メートルか、右が左か、具体的二語す。



いきなり手を出して、身体に触れたり、手を引いたりすること。

「大丈夫？」など、否定的・上から目線の言葉を使うこと。

1 空間の確保 わかりやすさ

こうして

解決！

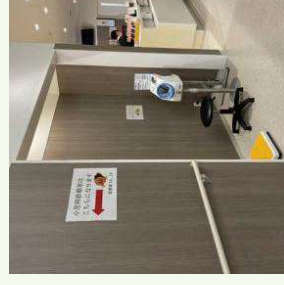
安全でスムーズに移動できる

- 廊下には柱などのでっぱりを極力設けず、通路側にドアを設置する場合は、開閉時に通行に支障がないよう、アルコープなどの安全スペースを確保する。
- 廊下の曲がり角では、人同士のぶつかりを防いだり、車いすがスムーズに方向を変えられるように、壁の角を丸くしたり、斜めにし、安全に配慮する。
- 手すりは途切れなく連続して設け、端部や曲がり角、居室の出入口付近には、現在位置や誘導に関する情報を点字や文字で表示する。
- 廊下に設置する防火戸は、車いす使用者も安全に通行できるよう、段差のない構造とし、前後に高低差が生じないようにするとともに、十分な通行幅を確保する。



壁面に埋め込まれた消火器と散水栓

壁の角を斜めにし、また、通行の妨げにならないように、消火器が埋め込まれた廊下の壁。



アルコープの設置

計測機器等を置くことができる廊下のアルコープ。

廊下に潜む

キケンなことって？

1 廊下を歩いている人が突然ドアが開いたので、避けようと思ったけど、バランスを崩して転んでしまった。

2 角が鋭いと、白杖が引っかかったり、ぶつかったりすることがある。

3 90度曲がる廊下では、先が見えないので、ぶつかりそうにこわい。

4 柱などの突出部で手すりが途切れていると、進行方向がわからなくなったり、次の手すりを見失ってしまい不安になる。

スムーズに通れるのは
どんなとき？

- 1 車いすに乗った状態や杖をついたまままでのドアの開閉は大変。
- 2 床と壁が似たような色だと、空間の奥行きや高さの感覚が曖昧になり平衡感覚が乱れたり、方向感覚を失ったりするので不安。
- 3 単調で似たような光景が続く廊下で、目印がないと、どこに
いるかわからなくなる。
- 4 廊下が入り組んでいたり、ぐるぐると回るような形をしていると、
進むべき方向が分からなくなってしまうことがある。

2

空間の確保
使いやすさ

こうして

解決！

誰でも同じルートを通れる

- 1 床は、毛足の長いカーペットは避け、転倒に対して衝撃の少ない材料で仕上げる。
- 2 床や壁は色のコントラストを大きくし、その境界を容易に識別できるものとする。
- 3 車いすの人の利用が多い施設の壁には、車いす当たりを設ける。
- 4 手すりの端部・曲がり角部分、利用居室の出入口付近等へ、現在位置及び誘導情報等の点字・文字表示をする。
- 5 展示室内の順路や図書館の書架間の通路は、車いすと歩行者がすれ違えるよう十分な幅員を確保し、段を設けない。また、休憩するためのベンチを適宜設ける。

照明は、通行に支障のない明るさ、むらのない明るさを確保できるようにする。



廊下へのベンチの設置

廊下にはみだしがないように設置。



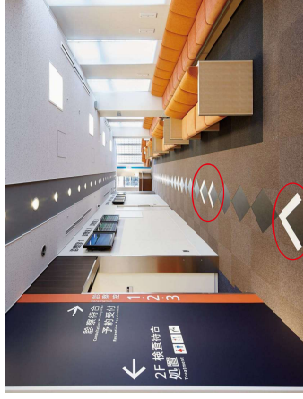
ゆとりある通路と連続した手すり

車いすの人同士がすれ違うことができる幅員が確保されている。



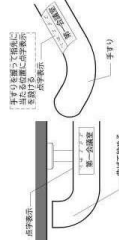
アクセスしやすいゆとりある通路

カウンター背後の通路、待合の椅子と椅子の間の通路には、車いすの人が通行しやすい幅員が確保されている。



視覚に障がいがある人へ配慮した動線の表示

足裏の感触等や足音、白杖で床を確認する等で動線がわかるよう、カーペットにひし形の塩ビタイルが埋め込まれている。照明が床の白いタイルに反射して方向を示す。



点字ブロックの代わりにカーペットを敷設

視覚に障がいがある人の歩行をサポートするために、点字ブロックの代わりにカーペットを敷設。突起がないので、車いすもスムーズに移動できる。

手すりの点字表示の例

手すり上部の点字は、見つけやすく、わかりやすい。



「おねがいカード」を知っていますか？



「おねがいカード」は、障がいのある人などが災害時や日常生活の中で困ったときに、手助けを求めやすくなるために作られたカードです。東日本大震災津波を教訓に、県内在住の約7万人の障がいのある方に配布されています。障がいのある人などが、困っていると感じたときは「どうしましたか？」と声をかけ、必要な支援につながる手助けをするよう心がけましょう。

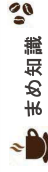
みんなが使いやすい階段って？

安全でスムーズに上り下りができる

- 移動に困難がある人でも、つまずいたり、迷ったりせず、無理をしなくても上り下りできる。
- 手すりや踊り場など、上り下りの負担や危険が少なくなるような工夫が必要。

階段にかわる移動手段も必要

- 足腰に不安のあるお年寄りや車いすを使用する人、視覚に障がいのある人にとって、階段以外の移動手段があると、移動の自由が広がる。
- 階段よりも負担の少ない移動手段が必要な人への配慮も必要。



まめ知識

危険な場所に「黄色」が多く使われているのはどうして？

JIS Z 9103（安全色）や ISO 3864 では、黄色は「警告色」として定義されており、危険や注意を促す場面で使うことが推奨されています。そのため、段差や転倒、事故のリスクがあるところへ注意喚起の意味で黄色が採用されています。赤や緑は色覚異常のある人にとって識別しにくい場合がありますが、黄色は比較的認識しやすい色です。カラーユニバーサルデザインの観点から、黄色は視認性が高いため、「誰にでも見えやすい」色として推奨されています。

<まちの中の黄色い物>



階段でこわいと思った瞬間って？

- 1 下まで見える直線の階段は、高さを強く意識してしまい、踏み板の先端が出っ張っていると、上るときつま先がひっかかって転びそうになる。
- 2 視覚に障がいがあるため、階段の始まりがわからず、ぶつかってころんでしまった。
- 3 階段の途中で段の形状が変わると、歩行のリズムが合わなくなり踏み外す危険が高くなるので、段の形状は変えないで。

こうして



解決！

1

ディティール色彩計画

安全に上り下りができる階段

- 1 直階段は、万一転落した場合、一気に下まで落ちてしまう危険性があるので、大きめの踊り場を設けたり、又は折り返し階段とする。
- 2 手すりは、両側に子ども用の高さのものと、大人用の高さのものをとつくる。
- 3 階段の手すりは、利用者が安全に移動できるよう、階段の端から約45cm延長する。手すりの端には、視覚や聴覚で情報を得られるよう、点字に加えて浮き彫り文字や音声案内を組み合わせ、階段の上端には、転倒防止のために警告用の点状ブロックなどを設置する。
- 4 段鼻は突き出さないこと。また、滑り止めを設け、その周囲の部分との明度等の差を設けることにより、識別しやすいものとする。



LED が埋め込まれた段鼻

段の始まりをわかりやすくするため、避難階段の最上段には LED 照明を設置。



わかりやすい段差

段鼻の色、明度の差をつけて、段鼻を認知しやすくした。階段手すりに設けられた点字表示。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準 第2章 単位空間等の設計 / 5. 階段 P60 ~

音声
コード



音声
コード

階段がなくて困ったことは？

- 1 足腰が弱く、階段を上り下りするのがつかない。エレベーターやスロープがあると助かる。
- 2 車いすを使っているのに、階段しかないで移動できない。
- 3 ベビーカーを押していたり、子どもを連れていけると、階段しかない場所では移動がつかない。

2

選択の幅を広げる

こうして

解決！

階段にかわる移動手段も必要

- 1 利用者が迷わず移動手段を選べるように、階段の近くにスロープやエレベーターその他の昇降機を設置する。
- 2 階段、その他の昇降機は、利用しやすいように主要な廊下に設置する。
- 3 視覚に障がいがある人が階段部分に衝突しないよう、階段下には、柵やベンチ、植栽、点状ブロック等を適切に配置する。



段に併設された傾斜路
エレベーターから各室に至る廊下には段があるが、傾斜路が併設されている。



階段近くに設置されたエレベーター
エントランスから客席には音声案内付きのエレベーターでアクセスが可能となっている。

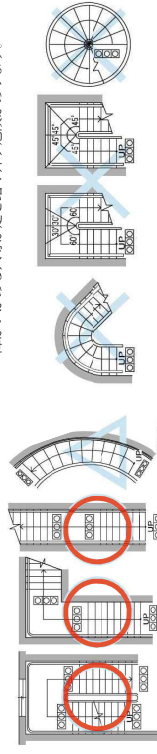
音声
コード

階段

Q. みんなが安全に昇り降りできる階段の形はどれ？

A. 垂直移動が多い階段です

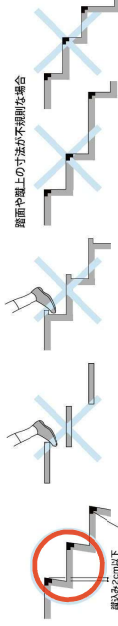
回り段は、垂直移動と回転動作が同時に起こることによってバランスを失いやすくなります。さらに、回り段は顔の幅が内側と外側に違いため視覚に障がいがある人等が足を踏み外す危険があります。



Q. つまづくことなく登れる階段はどれ？

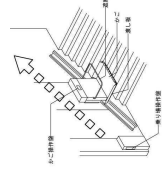
A. 蹴込が2cm以下の階段です

※蹴込(けこみ)とは、階段の踏み板(段板)と踏み板の間の垂直部分のことを言います。



蹴込が2cm以下
段板は、蹴込が2cm以下で、色のコントラストが利用しやすい
段板は、蹴込が2cm以下で、色のコントラストが利用しやすい
蹴込が2cm以下で、色のコントラストが利用しやすい

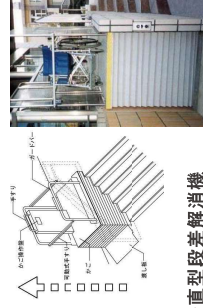
<スロープの代わりに設置される段差解消機>



斜行型段差解消機



斜直型段差解消機



【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 5. 階段 P60 ~

音声
コード

みんなが使いやすいエレベーターとは？

安全に スムーズに 上がり下がり できる

- ≫ エレベーターは、誰もが安全にスムーズに上り下りできる移動手段。段差を気にせず、車いすやベビーカー、重い荷物を持っていても安心して利用できる。
- ≫ 緊急時には安全に避難できるよう、非常ボタンや音声案内、停電時の自動着床機能などの対策が必要。

わかりやすく乗り やすい 場所にある

- ≫ 施設の出入口や主要な部屋から見える位置やわかりやすい表示があることよい。
- ≫ 遠回りせずに使える位置にあると移動距離も短く使いやすい。
- ≫ 昇降の向きや何階にかごがあるか分るとイライラしない。
- ≫ 案内は視覚・音・触覚など多様な方法でお知らせすると多くの人に伝わりやすい。

誰でも 遠慮せずに 乗りやすい

- ≫ ロビーに十分な広さがあると、待ちやすくて車いすの方向転換も楽。
- ≫ 車いすやベビーカーを使っても安心して乗れる広さや数があると、みんな待たずに乗れる。



使いにくい
と
感じることは？

- 1 階段しかないで、車いすでは移動できない。
- 2 ペビーカーや重い荷物を持っていると、階段では危険で大変。
- 3 視覚情報だけで案内されると、今どこにいるかわからない。
- 4 緊急ボタンの情報が行き届かない。

こうして

解決！

1

安全への配慮
緊急時の備え

安全にスムーズに上り下りできる

- 1 上下階への移動は、安全性の確保や利便性を考慮し、原則エレベーターを設置する。やむを得ずエスカレーターを設置する場合は、エレベーターに隣接して設ける。
- 2 緊急時に誰かがいる人が外部と連絡を取ることが可能なボタンや、音声や文字で情報提供や誘導案内等を行う表示装置を設置する。非常呼び出しボタンは、触覚又は点字でわかるようにする。
- 3 非常時のための設備として、作動したときに電光表示等と音声で案内できる地震時等管制運転装置及び火災時管制運転装置を設置する。



1 出入口のガラス窓、モニターの整備

中の様子が見えたり確認できるため防犯効果になる。フロア案内、避難経路、災害時の緊急情報などの情報提供ができる。



2 案内の電光表示設置

緊急時に文字情報が提供できる。

音声
コード

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/6.エレベーター・エスカレーター P65～

音声
コード

使いにくい
エレベーターって？

- 1 目的の場所へ直接アクセスできず、遠回りしなきゃならない。
- 2 乗り継ぎがある場合など、エレベーターの場所がわかりにくく、探すのに時間がかかってしまっていた。
- 3 音声案内だけでは情報が得られず、視覚的な表示がないと今の状態がわからない。
- 4 扉の開く方向がわからないと、進行方向がわからなくなる。

2

アクセスの
しやすさ

こうして

解決！

わかりやすく 乗りやすい場所にある

- 1 エレベーターは、誰もが利用しやすい、わかりやすい位置に設け、利用居室、車いす使用者用トイレや車いす使用者用駐車区画がある隣に停止させる。
- 2 制御装置は、車いす使用者が利用しやすい位置に設け、籠内には、籠の現在位置を表示する装置や、ドアの開鎖、運転異常や定員超過を音声や電光表示板等視覚情報により知らせる装置を設ける。
- 3 車いす使用者が籠の中で転回しなくても、戸の開閉状況が確認できるよう、出入口状況確認用の鏡を設ける。
- 4 籠内又は乗降ロビーに、到着する籠の昇降方向を知らせる音声装置を設ける。複数言語に対応することで、外国人利用者にも配慮した設計とすることが望ましい。

ホンネ

聞こえない声に、見える安心を。！

混雑したエレベーターは、ろう者にとって「見えないバリア」の塊です。奥に追いやられると、「〇階をお願いします」と声をかけることができず、目的の階を諦めることもしばしばです。特に辛いのが重量オーバーのプザーです。警告音が聞こえない私たちは、自分が原因で喘ぎながらも気づけません。周囲からの「なぜ降りないんだ」という冷ややかな視線を感じて、初めて事態を察します。「聞こえている」前提の設備は、時に私たちが針のむしろに立たせます。ランプ表示など、視覚でも状況がわかる配慮を切に願います。

音声
コード

エレベーター

エレベーターでない
移動できないのに・・・
どうして？

- 1 混雑時には一般利用者が満員となり、ベビーカーを利用したままでは、なかなか乗ることができなかった。
- 2 エレベーターが優先利用対象かどうかが分かりにくく、対象となる人が十分に利用できていない。
- 3 車いす使用者用トイレがある隣に優先エレベーターが止まらず、遠回りを強いられた。

こうして

解決！

3

多様な利用者
への配慮

誰でも遠慮せずに乗りやすい

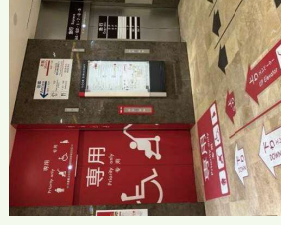
- 1 エレベーターが複数あるときは、そのうちの1つを、車いすの人やベビーカーを使っている人が優先的に利用できるエレベーターとする。
- 2 優先エレベーターの乗り場は、床や壁の色を周囲の色と変えたり、大きな文字やピクトグラムを使った誘導ラインや扉を設置するなど、対象者が分かりやすいようにつくる。
- 3 乗降ロビーには、ベンチや待機スペースを設け、利用者が安心して待てる環境を整備する。
- 4 車いす使用者やベビーカー利用者が安全かつ快適に利用できるよう、充分な広さを確保する。また、複数の利用者が同時に乗っても快適に過ごせるよう、手すりや操作盤の位置にも配慮し、スムーズな移動を可能にする。



優先レーンに並んでいる方からエレベーターに乗り込んで頂くようにピクトグラムで大きく表示。



お年寄り、障がいのある人、妊産婦、乳幼児連れなど、対象者が明確に示することで、利用者の混乱やトラブルを防止。



【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/6.エレベーター・エスカレーター P65～

音声
コード

みんなに伝わる案内表示

- 多くの人が見慣れた図記号や、誰でも直感的に内容がわかるもの。
- デザインが統一され、見やすい色や形で伝わりやすく、色や形で機能を明確化する。(例：非常口は緑、注意は黄色など)
- 色覚の多様性に配慮し、色だけでなく形や文字による補完を行う。

シンプルでわかりやすい

- 視覚に障がいがある人にも見やすい色の工夫、点字や音声など複数の伝達手段で伝える。
- 文字情報と図記号を併用し、情報を補完する。
- 子ども、外国人に向けて、目線の高さに配慮し、多言語や簡単な言葉で伝える。

どんな人にも伝わる

- 施設の出入口や廊下の見やすい場所に設置したい。
- 案内所の近くにあると、人の支援と一緒にサポートができる。

見つけやすい迷わない



見える情報で、見えない壁を無くしましょう！

案内表示は、誰もが迷わず安心して利用できる環境をつくり、インクルーシブな社会のメッセージとして公平な利用を支える重要な要素です。

何のためのサイン？

- 案内表示の高さや位置によって、利用者の自然な視線に入らない。
- 表示が文字だけで、外国人や文字・漢字を読むのが苦手な人には意味が伝わりにくい。
- デザインが複雑で、サインなのかすぐに判断できない。

1 わかりやすさ一貫性

こうして

解決！

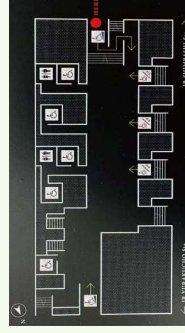
シンプルでわかりやすい

- 表示板の高さは、視点からの見上げ角度が小さく、かつ、目線の低い車いすの人にも見やすい高さ、ロービジョンが近づいて読むことができる位置・見やすい高さとする。
- 利用者にとってわかりやすいよう、文字・ピクトグラム・図等を組み合わせたシンプルなものとする。
- 文字は遠くからでもわかりやすい大きさとし、ゴシック体など読みやすい書体とする。
- 必要な情報だけを表示し、長文や専門用語を避け、短く簡潔な言葉を使用する。



色のコントラストと統一された書体

視覚に障がいがある人でもストレスなく文字が読めるよう、背景色を濃い色とし、大きい白い文字で表示する。字体はゴシック系に統一している。



ピクトグラムと点字併記した案内板

複数店舗で構成する路地出入口に、車いす使用者トイレ・スロープ等の位置を点字併記。

分かりにくい
サインとは？

- 1 ロービジョンや白内障だと、背景の色と文字や図の色が似ていると、書いてある内容が読み取りにくい。
- 2 デザインや文化的背景によっては、意味が誤解されたり、わからなくなったりする。
- 3 ボタンがないタッチパネル式では、指の感覚で操作する視覚障がい者にとっては画面のどこに何があるかをわかりにくい。
- 4 デザインがバラバラでどれを類りに進めばいいかわからない。

2
可読性
ピクトグラム



どんな人にもでも伝えられる

- 1 色彩・色づかい、ロービジョン、白内障（黄変化視界）のお年寄り、色覚多様性のある人にわかりやすいものとする。
- 2 ピクトグラムには文字を、漢字にはひらがなを併記する。壁に設置する表示板・室名表示は、視覚に障がいがある人のための点字を併記する。
- 3 年齢・障がい・言語などに関係なく対応できるよう、音声案内や誘導音、触ってわかる地図を組み合わせてつくる。
- 4 タッチパネル式案内板は、視覚に障がいがある人にとって操作が難しい場合があるため、点字や音声案内、物理スイッチなどの補助機能を併設することが望ましい。

ホンネ

もしも

言葉のわからない国で災害にあったら...

多くの外国人観光客が県内を訪れています。もし大地震が起きたら、地震のない国から来た人はパニックになるかもしれません。もし外国語で情報を得られなくても、土地勘のない場所、自分のいる所さえわからないかもしれません。

そんなとき、皆さんが近くにいたらどうしますか？
「外国語が話せないから」「迷惑かも」「自分で何とかできるだろう」と話しかけるのをためらったりするかもしれません。でも、外国語が話せなくても、「気持ち」は伝わりやすさ、やさしく話しかけられたり一緒に行動してくれたらうれしいです。不安な気持ちが和らぎます。災害の時には、いつもよりフレンドリーに話しかけてみてください。

音声
コード

まちがいのよう
案内表示

迷わず移動できるように
案内できてる？

- 1 施設によって、間によって案内表示の位置が違って、わかりにくい。
- 2 できるだけ他の人の助けを借りずに、目的地に行きたい。
- 3 立ち止まってる確認は、人の流れの邪魔になってしまいうので、気を使ってしまう。

3
アクセシブル



見つけやすく迷わない



- 1 案内板は、出入口や案内所、エレベーターホール等の近くに設置し、浮き彫り文字と点字を併記したり、音声案内を組み合わせたものとする。
- 2 主要な経路や避難経路等の動線を示す案内板は、各フロアに設け、利用者の動線を妨げない位置に配置する。
- 3 点字・音声等による案内板を設置する際は、施設内あるいは近隣施設内の設置位置等を統一し、視覚に障がいがある人が見つけやすいように配慮する。
- 4 利用者が迷わず移動できるよう、矢印や色分けによる誘導や、多言語対応の掲示板や音声案内等を設置する。



トイレの出入口には男性用と女性用で異なる色を添じた指向性のあるスピーカーが取り付けられ、男女の識別への配慮が行われている。視覚に障がいがある人に配慮したトイレ出入口には立体的なサインも設けられている。

必要な情報に絞り、文字と色で直観的にわかるように表示している。

【技術的基準 参考文獻】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/7.案内表示 P78～

音声
コード

スムーズに移動するための誘導設備って？

- 「視覚に障がいがある人などの移動のために、必要な情報が得られる案内所等まで、シンプルな動線で切れ目なく誘導できる。」
- 「誘導ブロックは黄色など視認性の高い色を使用し、周囲の床材との明度差を確保してコントラストを高め、視認性を向上させる。」
- 誘導用ブロックと他の設備の取り合いに注意する。

わかりやすく

切れ目ない誘導

危険な箇所を知らせる

- 段や進行方向の変更など、気を付けるべき部分で、効果的に警告や注意喚起ができる。
- 音声による誘導や手すりの併用も効果的。

白杖（はくじょう）の役割って知ってる？

役割1 障害物が無いかを確認するため

白杖を前方や左右に動かしながら歩く姿を見たことがあると思います。進む方向の地面の状態や障害物がないかを確認するためです。

役割2 周囲の様子を探るため

白杖を地面について歩くことで発生した反響音や杖の感触を使い、歩行ルートや空間の広がりを確認しています。反響音で自分が交差点などの開かれた空間にいるのか、それとも壁に近い場所に立っているのかを確認することができます。

役割3 周囲へ意思表示

白杖は「視覚に障がいを持っている」ことを周囲に知らせるシンボリック役割を持っています。

役割4 自立と心理的安心感

白杖は視覚に障がいを持つ人が自分の力で移動できる自立性を支えます。

音声
コード

歩きやすく
誘導できる？

1 広い空間では、どこを歩けばいいかわからなくなる。

誘導用ブロックを頼りに歩きたいけど、まわりの道と同じような色や素材だと、どこにブロックがあるのかわかりにくい。

2 誘導用ブロックが途中で途切れていたり、警告ブロックが二重に設置されていると混乱する。

誘導用の手すりの近くや誘導ブロックの上に、ベンチや植木等の物品を置くと、視覚に障がいがあると、その存在に気づかず衝突するのでやめて欲しい。

こうして

解決！

1

連続性
利便性

わかりやすく、切れ目のない誘導

1 誘導用ブロックは連続してつくる。特に、受付が入り口とはちがう階にある場合は、受付・案内設備、目的地まで迷わず移動できるようにつくる。

2 ドア又は玄関マットの手前、案内所の受付カウンターや点字・音声案内設備、エレベーターの乗り場ボタン手前などには、位置を示す点状ブロックを設置する。

3 誘導用ブロックは、利用者がスムーズに移動できるように、急な方向転換や不自然な屈曲は避け、自然な動線に沿って配置する。

4 誘導用ブロックと手すり、音声案内を組み合わせると効果的。



視覚に障がいのある人のための誘導用ブロックの敷設とスマートフォンのカメラで、いろいろな角度からフォーカス不要で読み取ることができ、自動的に距離や目的地などの音声案内を聞くことができる。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/8.視覚障害者誘導用ブロック等 P88～

音声
コード

警告・誘導の違いが
きちんとわかる？

1 階段の上端、下端には注意喚起が必要。

2 初めての場所では「どこに何があるかわからない」ことが最大のストレス、人に聞いて安心したい。

3 誘導用ブロックが劣化ではがれているが、直されていない。

2

情報の発信



こうして

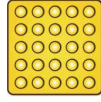
解決！

危険な箇所を知らせる

- 1 階段前後やスロープの一番上のに接している廊下や通路(踊り場)には、30cm程度手前に点状ブロックをしく。方向転換するスペースをつくる。
- 2 階段の手すり、階段の手前や上がりきった場所から、バランス(転倒)やつまずきの心配がない程度)が整うまでの一定の長さを確保する。
- 3 点状ブロックや音声案内装置などのハード面だけでは対応しきれない部分を補うため、人による対応や運用の工夫を学ぶ研修を実施する。
- 4 誘導用ブロックの剥がれや破損により機能を損なわないよう、適切な管理を行い、また工事の後は確実に復旧する。

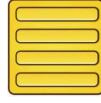
点状ブロックの上に物を置くのはやめましょう！

点状ブロックは、視覚に障がいがある人が歩くときに、足のうらや白い杖（はくじょう）でさわって、道の場所や進む方向を知するための大事なブロックです。点状ブロックの上には自転車や荷物などが置いてあると、視覚に障がいがある人はそれに気づけずにつづいて転んでしまい、大けがにつながる可能性があります。視覚に障がいがある人が安全に歩けるよう、点状ブロックの上や近くに自転車や荷物などを置かないように心がけましょう。



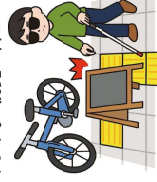
点状ブロック

警告や入口を示す。



線状ブロック

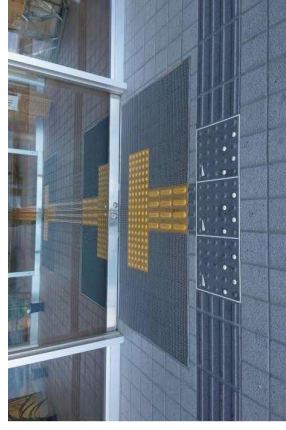
道順を案内する。



<視覚障がい者用誘導ブロック>



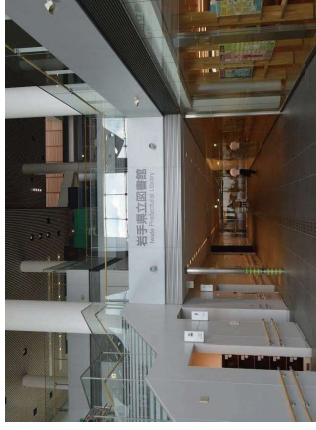
▲歩道と道路の境界に設置した警告を示す点状ブロック



▲自動引き戸の出入口を知らせる点状ブロック



▲受付やエレベーターへ誘導する線状ブロック



▲トイレやエレベーター、図書館出入口へ誘導する線状ブロック

ホンネ

見えにくさにも
いろんな形があります。

視覚障がい者には全く目が見えない全盲と、視力が低い、または視野がとて狭く見えて見にくい弱視があります。全盲は点字ブロックを足の裏や白杖の先で確認しながら歩きます。一方、弱視は点字ブロックの色を頼りに歩きます。景観を損ねないよう黄色は認識しやすい色です。景観を理由に路面と同系色だと点字ブロックがあるのに気付かないこともあります。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/8.視覚障害者誘導用ブロック等 P88～



音声
コード

音声
コード

誰もが出入りしやすい出入口って？

場所がわかりやすい

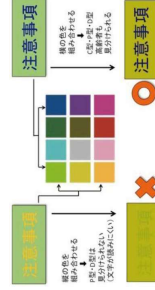
- » 室名の表示があると、目的の場所がわかる。
- » まわりの壁に対して扉や取っ手の色や形などで、わかりやすく工夫。
- » ガラス窓で部屋の中の様子がわかる。

開け閉めがしやすい 通りやすい

- » 力のない人でも使いやすい取っ手は、全ての人が使いやすい。
- » 自動でゆっくり閉まる扉は、急がずに通れる。
- » 溝や段差があると、車いすの通行を妨げる。

色のコントラストはなぜ重要？

色のコントラストは、背景と文字や図形の色の差を指します。コントラストが十分にあると相認性が高まり、誰でも情報を認識しやすくなります。さらに、カラーユニバーサルデザインを取り入れることで、色覚の多様性に配慮し、色だけでなく形や文字情報を併用することで、より多くの人々が確実に情報を理解できるようにになります。



- 多くの人に見分けやすい配色を選ぶ
色の明るさ（明度）や濃さ（彩度）を
変える。
- 色が見分けにくい人でも情報が伝わる
文字ふちどりをつけたり、下に色の帯を
入れたりして読みやすくする。
- 色の名前を用いたコミュニケーションができる
色の違いに加え、形や文字、模様でも
違いが分かるようにする。

音声
コード

出入口で
困ることって？

- 1 案内板に何が書いてあるかわからない。（視覚障がい者）
- 2 ドアと壁の色が似ていて、ドアがどこにあるかわからない。廊下との境もわかりにくいときがある。（お年寄り、視覚障がい者）
- 3 歩いていて、自然に目に入らない位置に案内板があると見落としてしまい迷ってしまう。
- 4 音でドア周辺の気配を感じることができず、不安。（聴覚障がい者）

こうして

解決！

1
わかりやすい

場所がわかりやすい

- 1 視覚に障がいのある人が位置を把握しやすいように、案内板や手すりには触ってわかる点字などを、案内板の手前には点字ブロックを敷く。
- 2 視覚に障がいのある人でもわかりやすいよう、室名には、大きな文字や絵を使い、ドアと壁の色、又は取っ手とドアの色はコントラストをつける。
- 3 室名は、背景の色と文字のコントラストを大きくし、目線の低い人にも見やすい高さにつける。
- 4 ドアには、車いすの人や子ども、聴覚に障がいがある人が、ドアの反対側の様子がわかるように、小窓をつける。



各室の出入口を示す手すり

入口がわかるように入口脇の壁の色を変えてい
る。連続して設置されている手すりのエンドをし
にし、ドアの開閉ボタンへ誘導している。

分かりやすさに配慮した出入口

部屋番号を見つけやすいよう、照明をあて、病室
前の手すり近くには呼び出し文字が付けられている。
出入口を分かりやすくするため、各室の出入口近く
の床の色を変えている。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 9. 利用居室の出入口 P95 ~

音声
コード

ドアを通るときに
困ったことって？

- 1 力が足りなくて、強くにぎったり回したりするのがむずかしい。
- 2 通り抜ける前にドアが閉まってしまい、ドアに挟まれた。
- 3 狭い場所で無理に動こうとして、壁やドアにぶつかってしまった。
- 4 ガラス戸に気づかずぶつかってしまった。

2
使いやすいさ

こうして
解決！

開け閉めしやすく通りやすい

- 1 取っ手は、にぎりやすい棒の形や力の弱い人でも使いやすい形のもの（レバーハンドル式、プッシュプルハンドル式など）とする。
- 2 ドアは、車いす使用者・上肢に障がいがある人等に配慮し、引き戸または自閉式ドア等とし、開閉速度が調整できるものとし、段差や溝をつくらない。
- 3 車いすの人が安全でスムーズに方向転換したり、出入り口を通れるように、十分な有効幅員を確保し、ドアの前後に十分な回転スペースをつくる。
- 4 全面をガラス戸とする場合は、気づきやすいよう衝突防止シールや横線を設ける。



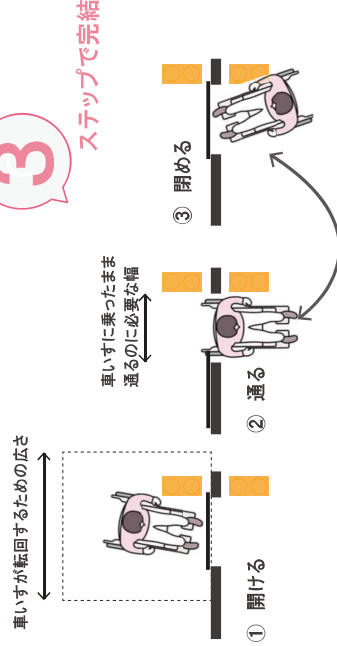
バーハンドル（棒状）の取っ手
握りやすく、色々な高さから操作できる。



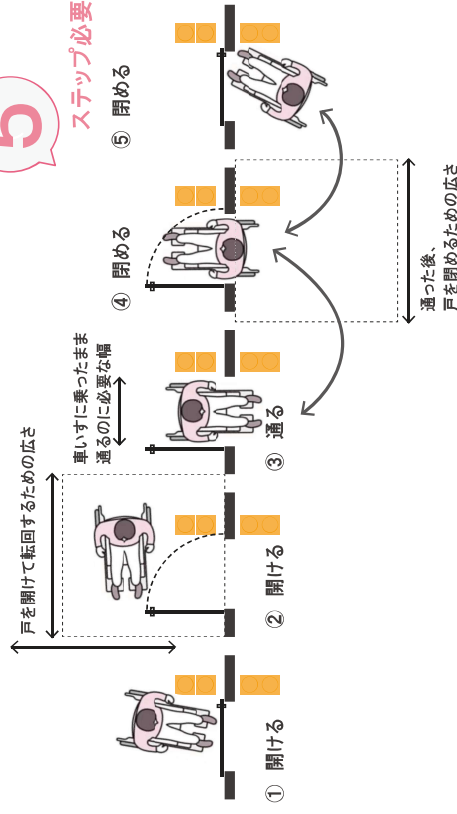
段差のない出入口
ドアの前後に高低差がなく、車いすの人がスムーズに通れる出入口。



<3ステップで済む”引き戸”>



<5ステップが必要な”開き戸”>



【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 9. 利用居室の出入口 P95 ~

音声
コード

🔍

音声
コード

みんなが使いたくなるトイレって？

その人の事情にあわせて選べる

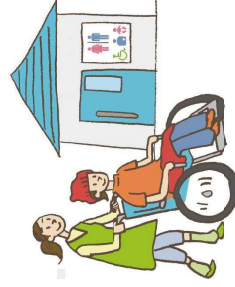
- 》 多様な利用者のニーズに合わせ、それぞれにふさわしいトイレを選択できる。
- 》 乳幼児連れ、車いす使用者、排泄介助が必要な人、オストメイト、男女共用、性的マイノリティなど様々な利用者のニーズがある。

待たない 十分な数がある

- 》 想定される利用者数を把握して、十分な数を設ける。
- 》 「車いす使用者用トイレ」だけでなく、他の機能を分散させると、利用者の集中が防げる。

どんなトイレかわかりやすい

- 》 建物の出入口や主要な部屋から見える位置に、目につきやすい案内があるとかかりやすい。
- 》 音声による案内装置は、視覚に障がいのある人にも使いやすい。



音声
コード

【技術的基準 参考文献】

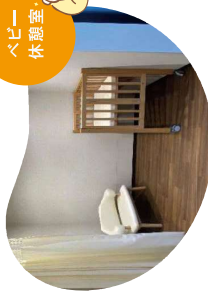
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/10. 便所・洗面所 P100 ~

便所・洗面所

性的マイノリ
ティへの配慮



赤ちゃんにミルクをあげたり、おむつ
替えしやすさするための専用の部屋。



ベビー
休憩室

男の人も女の人でも使えるところに
あって、手伝ってくれる人が異
性でも一緒に入れる広いトイレ。

介助が必要
な人への対応



排泄の介助や着替えのための大
型ベッド（折り畳み式）を設置。

オストメイト
への対応



おなかに特別な道具をつけている
人が、道具を掃除したり、交換し
たりするための専用トイレ。

車いす使用者
への対応



音声案内

おむつ替え
コーナー

パパもママも使える場所
につくる。



小児専用
トイレ



音声
コード

使うときの
悩みごと

- 1 トイレが狭く、車いすを使用した状態で、ベツを広げられない。
- 2 赤ちゃんを抱えて、上の子どもと一緒に入れるトイレがない。
- 3 手に障がいがある妻の介助をしたいが、女性トイレには入れないのて、介助できない。
- 4 オストメイトは見た目ではわからないので、車いす用トイレを使っていたら、車いすの人に怒られた。
- 5 見た目と性別が違うので、どっちのトイレを使っているか、いつも悩んでしまいい、安心してトイレにいけない。

こうして

解決！

1
公平性
選択の幅

その人の事情にあわせて選べる

- 1 車いすやベビーカーを使っている人、付き添いや介助が必要な人のために広いトイレをつくる。
- 2 男女それぞれの一般のトイレに、障がいの特性やその人の事情に応じて使える設備を設置したトイレをつくる。
- 3 利き手にあわせて選択できるよう、しつらえのバリエーションを増やす。

〈利用者のニーズに対応したトイレの選い〉

車いす使用者



- 開け閉めしやすいドア
- スムーズに動ける広さ
- 便座の両側への手すり、大型ベツ、荷物置台、フック、ゴミ箱
- 廊下へ非常用呼出ランプ

オストメイト



- ストーマ器具にたまった排泄物の処理やストーマ器具の交換ができる広さ
- 水洗器具（汚物流し）
- お湯の出るハンドシャワー
- 鏡、着替え台
- 荷物置台、フック

乳幼児連れ



- ベビーカーと一緒に入れる広さ
- 乳幼児用おむつ交換台
- 便乳幼児椅子、着替え台
- 荷物置台、フック、ゴミ箱
- ドアの上に補助カギ

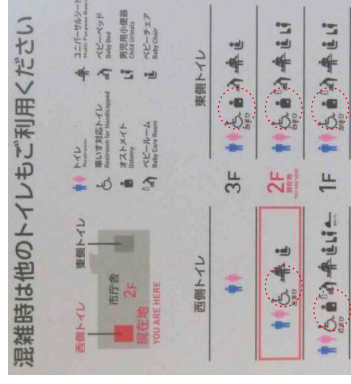
異性の介助
同伴利用
性的マイノリティ



- 男女が共用できる位置
- 大人が2人以上で入れる広さ
- 手すり、着替え台
- ドアの上に補助カギ



▲トイレ入口近くの大型表示画面で空き室を知ることができる。



▲利用者の状況にあわせて利用するトイレを選択できる。



▲利用者の状況にあわせて選択できるよ
う、対象等をピクトグラムで表示。
▲設備や手すりと便器後方の壁、手すりの包コ
ンラスタをつけることで、視認性を高めている。
▲オストメイト、着替え台を設置した
男女共用のトイレ

ホシネ
**多機能トイレ＝オストメイトにとつて必ずしも
使いやすいトイレとは言いきれない。**

とあるジョビングモールでオストメイトのお母さんと子供が多機能トイレを利用した際、排泄処理に時間を要したこと、外で待っていた車いす使用者から外見ではわからないオストメイトに「なんであなたがこのトイレを使うのか？」と大声で叱責を受けるといふ出来事があった。二人は泣きながら自宅に戻り、その後の生活に影響を与えるほど忘れられない事となった。この事例は、車いすの人もオストメイトのお母さんもお母さん、設置側の障がいの者の生活を知ろうとしないことがこのような事例を生むのです。必要なのは障がいへの「正しい理解」！

新設「道の駅」高遠道路 SA・PA に障がい別のトイレ設置が進んでいる。

【技術的基準 参考文獻】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 10. 便所・洗面所 P100 ~

音声
コード



音声
コード

使うときの 困りごと

- 1 車いすで使えるトイレが1階の1カ所にしかなく、そのトイレを誰かが使っていると、しばらく待たなきゃならない。
- 2 おむつ交換できる台が、車いす使用者用トイレにしかなくて使いにくい。
- 3 オストメイトが装着しているストーマ装具の掃除や交換に時間がかかる。
- 4 オストメイトがトイレを使うのに必要な時間が理解されていないため、「急がなきゃ!」という思いが常にあって落ち着かない。
- 5 バリアフリートイレの自動ドアは、一定時間経過後に自動で解放されても、扉は自動で閉かない設定にして欲しい。

こうして

解決!

2

十分な
広さと数

待たない充分な数がある

- 1 一つのトイレに機能を集約することなく、「車いす使用者用トイレ」、「オストメイト用設備を有するトイレ」及び「乳幼児用設備を有するトイレ」は分散して設ける。
- 2 施設全体における各階の用途(お年寄りの利用が多い用途、乳幼児連れの利用が多い用途等)の特性を踏まえて配置する。
- 3 「車いす使用者用トイレ」や「乳幼児用設備を有するトイレ」は、男女が共用できる位置に設ける。



〈障がい、毎の、所要時間の目安〉

⌚ 15分～30分：内部障がい者（オストメイト）

⌚ 10分～20分：車いす使用者・乳幼児連れ

⌚ 上下肢障がい者

⌚ 5分～10分：視覚障がい者・お年寄り

⌚ 発達障がい者・ケガをしている人など



各フロアのトイレ利用状況を、リアルタイムで表示。

わかりにくい 使いにくい

- 1 トイレの入り口がどこかわかりにくい。
- 2 トイレが広すぎて、どこに何があるのかわかりにくい。
- 3 『誰でもトイレ』っていう名前だと、誰でも自由に使っていてほしい。思われてしまうことがあるから、ちがう名前にしてほしい。
- 4 手すりやボタンの色が壁の色と似ていて分かりにくい。
- 5 道具や機器がたぐさんあって、どれを使えばいいのが迷ってしまう。

こうして

解決!

3

使いやすさ

どんなトイレかわかりやすい

- 1 トイレの入口には、利用対象や設備・機能をピクトグラムなどでわかりやすく表示し、名称は利用目的が明確に伝わるようにする。
- 2 視覚に障がいがある人のために、視覚障がい者誘導用ブロック等の敷設、トイレ入口への触知図や音声案内をつける。設備の操作部の色、コントラストに配慮する。
- 3 同一施設内のトイレに設置される設備機器は、使い方が同じになるよう統一する。
- 4 壁と同じような色だと、ドアや設備が見つけにくいから、コントラストを大きくする。



ピクトグラム・色分け



ピクトグラム・平面図

ピクトグラムと色により男女の別や機能をわかりやすく表示。遠くからでも区別しやすい。

車いす使用者用トイレ（大型ベッド付き）の表示介助ベッドのピクトグラム表示とトイレ内の案内図。

音声
コード

【技術的基準 参考文獻】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/10. 便所・洗面所 P100 ~

音声
コード

みんなが気持ちよくすごせる客室って？

- ≫ 車いす使用者用客室では、車いすに乗ったまま自由に移動できる十分な広さ、座位であることの設備等の高さへの配慮が必要。
- ≫ 内装や家具、デザインなどを一般の客室と同じように整えて、同質の宿泊等の機会が得られるようにする。
- ≫ 客室の鍵や扉の取っ手、水栓器具などは、操作がしやすく、間違っても安全でやり直せる。

使いやすい広さ 使いやすい設備

- ≫ テレビなどで、建物や設備、避難経路の案内があると、また字幕放送表示があると情報が得られやすい。
- ≫ 設備とともに、人によるサポートが充実していると安心。
- ≫ 緊急時の通報や情報伝達も必要。

必要な 情報を得やすい

スマートフォン・タブレット端末、テレビ、携帯端末等の活用

タブレット端末を活用し、障がいの特性に応じたコミュニケーションの方法を選択することができず。なお、視覚に障がいがある人はスマートフォン・タブレットを使いにくいため、人的対応が必要となる増加があります。

- スマートフォン・タブレット端末を利用して、客室からフロントへメールによる問い合わせや緊急連絡への対応
- 音声データを認識させた家電の操作、情報検索ができる AI スピーカーの設置
- テレビを利用して貸出備品を表示



(タブレット・スマートフォン)
フロントとの連絡
客室内設備コントロール機能付き (左)

音声
コード

なかなか使えず
困ってしまうことって？

- 1 車いすに乗ったままでは通路がせまくて壁や家具にぶつかりってしまい、ストレスを感じる。
- 2 車いすに乗ったままではハンガーに届かないので、衣類はいつもベッドの周りに置いてしまう。
- 3 簡単に使えるものでないと、次に何が起こるかわからず、不安になり、入浴を避けてしまう。
- 4 スイッチ類がいろいろなところに点在していて、使いにくい。

こうして

解決！

1
使いやすい
部屋の
しつらへ

使いやすい広さ・使いやすい設備

- 1 客室の出入口や室内のドアの幅・通路は、車いすに乗ったままスムーズに通れて、自由に方向を変えるのに十分なスペースをつくる。
- 2 アイスコープ、インターホン、カギ、スイッチ・コンセント、棚、ハンガーパイプ・フックの高さは、車いすに乗ったまま手が届く高さにつける。
- 3 シャワーヘッドかけや水栓金具は、入浴用いす等に座った状態で手が届く高さに取り付けるか、高さを調整できるものとし、浴槽には、立ち座り・姿勢保持等のための手すりを設ける。
- 4 水栓器具は、自動温度調節付きレバー式水栓等の操作が容易にでき安全な形とし、サーモスタットには、適温の箇所に認知しやすいよう認印等をつける。



一箇所にまとめられたスイッチ

照明と電動カーテンの操作が可能で、スイッチに、文字と記号を併記した、ベッド脇のコントロールパネル。



一体的にまとめられた浴室・洗面・トイレ車いすに乗ったままでも利用しやすいよう、洗い場付き浴室に連続して洗面所兼トイレを設置。車いすの回転スペースも十分に確保。

【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/11.客室P130～

音声
コード

どこに何があるか
どうしていいかわからない。

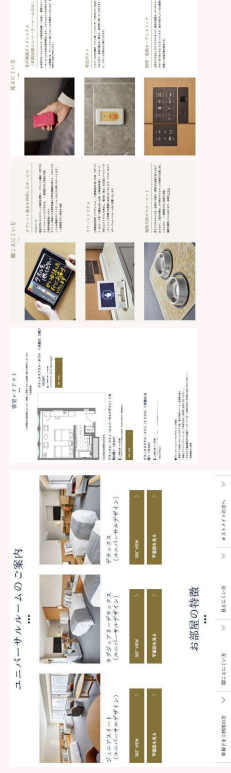
- 1 カーデキーで部屋に入ったが電気の付け方がわからない。
- 2 部屋の設備や家具の配置を把握したい。
- 3 発災時、リアルタイムで情報が得られるか、きちんと避難できるか不安。
- 4 今日の出来事をニュースで確認したい。

こうして 解決！

2
わかりやすい

どこに何があるか情報が得やすい

- 1 睡堂に障がいを持つ人に配慮し、テレビは字幕放送の表示が可能なものとし、字幕表示が可能なりモコンに備える。
- 2 お年寄りや障がいのある人などには、部屋までの行き方や、カーデキーの使用法、電気やエアコンの使い方がむずかしい人には、職員等が丁寧に案内する。
- 3 火事や地震などのときに、どのように避難するのかを職員等が丁寧に説明してくれるしくみをつくる。
- 4 室内信号装置や非常時の情報等を受信して、光の点滅や振動により伝達する設備（光警報装置）をつける。



ホームページでユニバーサル仕様の客室を紹介

家具の配置や部屋の広さを平面図・写真・movie でわかりやすく掲載。障がいに合わせて対応できる備品や器具も紹介している。

音声
コード

客室

〈車いす使用者のための客室〉



▲車いす使用者が室内を自由に移動でき、ベッドへ移動しやすいうように設けられたベッド脇のスペース。



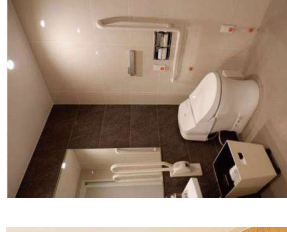
▲下部に車いす使用者の膝が入るスペースを確保し、踏みやすいよう、天板裏に突起をつけたライティングデスク。



▲ハンガーパイプが2本あり、1本は床から120cmの高さに設置できる収納とハンガーバー。



▲車いすが十分に通れる幅の浴室の出入口。



▲車いすが転回できるスペースを確保し、L型と踏ね上げ式の手すりを設置している。



▲スイッチ、ドアモニターは床から110cmの高さに統一して、戸の解錠ボタン、ドアモニター、空調スイッチを設置。



▲ミニバーキヤベットの足元は、車いす使用者やお年寄りの利用にも配慮して、出し入れしやすい高さとなっている。（足元約40cmの空間）

【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/11.客室P130～

音声
コード

みんなが使いやすい浴室・シャワー室って？

- ≫ 車いす使用者も円滑に利用できるよう、十分な広さがある。
- ≫ 介助するためのスペースも必要。
- ≫ 異性による介助にも配慮したい。（男女が共用できる位置に個室タイプの浴室）

使いやすい 広さ

- ≫ 立ち座りや移動のための手すりが適切に設置されている。
- ≫ 視線器具などは、操作がしやすく、間違っても安全でやり直しがきく。
- ≫ 浴室、シャワー室は転倒等の事故の危険の大きい場所であり、すべりにくい。
- ≫ 緊急時の通報設備があると安心。

安全で 使いやすい

シャンプーボトルのユニバーサルデザイン

市販のシャンプーボトルには、触って簡単にコンディショナーボトルとの違いが分かるように、ボトルの側面などにギザギザがついています。

これは「シャンプーとリンスの容器が同じで紛らわしい。形を変えて欲しい！」という消費者の声を下に開発されました。

シャンプーとリンスの容器の形状が似ている場合は、間違えて使わないよう、ボトル地キャップにわかりやすい印をつけましょう！



提供：花王株式会社

音声
コード

安心して使える？

- 1 室内が狭いと、車いすに乗ったままでは動きにくくて、使うのが大変。
- 2 手を伸ばしたり、無理な姿勢になると転びそうでこわい。
- 3 水栓金具の温度調整がむずかしい。
- 4 手を伸ばさないと緊急ボタンを押せないが、員合が悪いとそんなことできない。

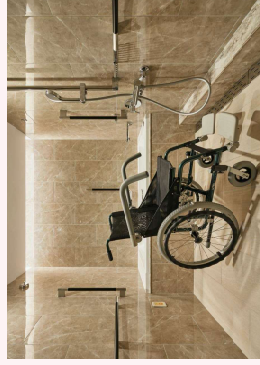
こうして

解決！

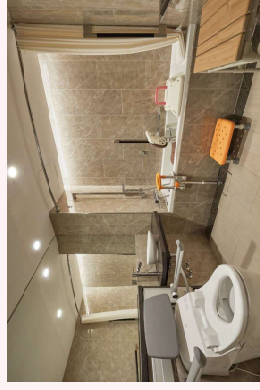
1
使いやすい
安全性

安全でつかいやすい

- 1 出入口のドアの幅や室内は、車いすに乗ったまま自由に方向を変えたり、介助ができる充分なスペースをつくる。
- 2 シャワーヘッドかけや水栓金具は、入浴用いす等に座った状態で手が届く高さに取り付けるか、高さを調整できるものとし、姿勢保持等のための手すりを設ける。
- 3 水栓器具は、自動温度調節付きレバー式水栓等の操作が容易にでき安全な形とし、サーモスタットには、適温の箇所に認知しやすいよう認印等をつける。
- 4 緊急通報ボタンは、室内の車いすに乗ったままでも操作しやすい高さ・位置に設置する。



介助ができる広いスペースや自立を支援する手すりを設置した浴室。



浴室とトイレを一体化し、移乗台及び浴槽出入りのための手すり、浴槽内での立ち座り・姿勢保持等のための手すりを設けた浴室。

【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/12.浴室・シャワー室・更衣室・装厠P152～

音声
コード

みんなが使いやすい脱衣室・更衣室って？

使いやすい 広さ

- ≫ 車いす使用者も円滑に利用できるよう、十分な広さがある。
- ≫ 介助するためのスペースも必要。
- ≫ 異性による介助にも配慮したい。

安全で 使いやすい

- ≫ 立ち座りや移動のための手すりが適切に設置されている。
- ≫ 水栓器具などは、操作がしやすく、間違っても安全でやり直しがきく。
- ≫ 緊急時の通報設備があると安心。

どうにもできず
困ったことって？

- 1 出入口や室内、通路がせまいと、車いすに乗ったままでは動きにくくて、使うのがたいへん。
- 2 車いすに乗ったままではロッカーの奥まで手がとどかない。
- 3 ロッカーやトイレの場所がどこにあるのか、見つけにくかったり、わかりにくかったりする。

こうして

解決！

1

使いやすい
安全性

安全でつかいやすい

- 1 男女が共用できる脱衣室・更衣室内に、車いすの人が円滑に利用できる脱衣室・更衣等のスペースを設ける。
- 2 出入口のドアの幅や室内は、車いすに乗ったまま自由に方向を変えたり、介助ができる十分なスペースをつくる。
- 3 収納棚やロッカーは、脱衣・更衣等のスペースの近くに設け、ハンガーパイプ・フックの高さは、車いすに乗ったまま手が届く高さとする。
- 4 脱衣のためのベンチを設け、みんなにわかりやすいように、壁・床の仕上げ材料は、ベンチと壁・床の色とコントラストをつける。



使いやすい更衣室等

ゆとりある広さ、車いす使用者の利用に配慮した高さのロッカーのある更衣室。



家族更衣室に設置したシャワー室

介助が必要な人や、車いすの人も利用できるよう、滑かえや作業のスペースを広めに確保している。

音声
コード



【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/12.浴室・シャワー室・更衣室・洗面室P152～

音声
コード

みんなが同じように楽しめる客席って？

客席まで みんな同じ動線 で行きやすい

≫ 誰もが同じルートを使うことで、「特別な経路」がなく
なり、みんなが同じく社会に参加することにつながる。

多様な客席の 種類と配置

≫ 車いす使用者にとって、複数の座席位置、価格帯の
選択の幅があることが重要。

≫ サポートする人も一緒に楽しめるよう、スペースを
確保する。

見やすい、 邪魔なものが 目に入らない

≫ 前の人の頭越しに舞台やスクリーンをしっかりと見られる
こと、後付けの機材などで視線が遮られない。

≫ 前の人が立って見ることがある客席では、見通しが
確保できるような配慮が必要。

みんなが無理なく
参加できる？

- 1 通りにくいと、ストレスになるので、施設に行くのをあきらめる。
- 2 文字の情報だけでは、どっちに行けばいいかわからない。
- 3 逆走する危険がある表示は避けてほしい。
- 4 聴覚に障がいがある人が、目的地を理解しやすいよう、視覚的にわかる案内表示等がほしい。

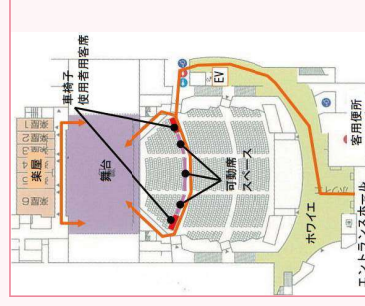
1
可読性
わかりやすさ

こうして

解決！

客席までみんな同じ動線で行ける

- 1 通路は、すべての人が安全で快適に移動できるように、段差をなくし、十分な幅を確保し、滑りにくい床材を使い、わかりやすい案内表示をつける。
- 2 案内表示は、年齢や国籍に関わらず行きたい場所に進めず行けるよう、文字やピクトグラム、音声案内を組み合わせる。
- 3 出入口や案内所、通路には適度な照度を確保し、曲がり角などわかりやすい位置に、順路を示す誘導用の表示板を設ける。通路には適度な照度を確保。
- 4 非常時の避難経路には、映像装置（デジタルサイネージ）、翻訳機能付き拡声器、フリップボードなどを整備する。



車いす使用者用客席、
客席から段差無しで舞台につながるルート



集団補聴設備の分散配置
席のバリエーションを確保
するため、縦通路に平行に
配置されている（南北どち
らかの大型映像が見えるこ
とを確認）。

【技術的基準 参考文獻】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/13.劇場・遊技場 P162～

音声
コード

音声
コード

選択できないって
不自由？

- 1 車いす使用者用客席が最前列にしかなく、スクリーンを見上げる形になり、体に負担がかかる。
- 2 車いす使用者と介助者1名分のスペースしかなく、家族みんなと一緒に見ることができない。
- 3 座る場所や料金を選べず、自由に選べない。
- 4 周囲への影響を気にして外出や鑑賞をためらってしまう。

2

選択の自由

こうして

解決！

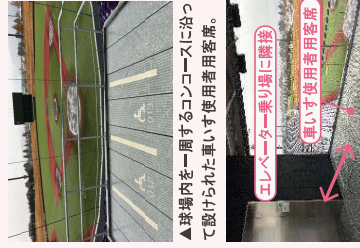
多様な客席の種類と配置

- 1 車いす使用者用客席は、チケットの価格帯、客席の種類ごとに、偏ることのないようバランス良く、見る方向や距離の異なる複数個所に分散してつくる。
- 2 車いす使用者用客席の横に同伴者の客席又はスペースをつくる。
- 3 大型車いすの利用者、補助犬利用者、乳幼児連れ、盲ろう者等、多様な利用者の利便性に配慮し、可動席スペースを設置する。
- 4 乳幼児連れ、知的障がいの人、発達障がいの人、精神障がいの人等の多様な利用者に配慮し、気がねなく観覧できる区画された客席（センサールーム等）を設ける。



さまざまな設備を表示した案内図

車いす使用者用客席、バリアフリートイレやキッズルーム授乳室、エレベーターやスロープ設置場所をピクトグラムでわかりやすく表示。



エレベーター乗り場に隣接
車いす使用者用客席

せっかく見に来たのに
見えない・・・

- 1 車いすだと目線が低いので、前の人が立ってしまうと、前の人の背中で視界が完全に遮られてしまう。
- 2 座った時の目線に手すりがあるって邪魔。
- 3 ステージが見えないと、他の観客が盛り上がっている中で、自分だけが楽しめない疎外感がある。
- 4 突然大声をあげたり、動き回ったりするので、まわりの目が気になって、見に行くかどうか悩んでしまう。

3

公平な
観覧環境

こうして

解決！

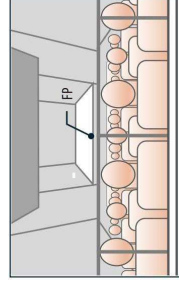
見やすく、視線を遮らない環境

- 1 車いす使用者用客席は、スポーツ観戦やコンサート等において前列の観客が立っている状況でも視界が遮られない段床の高さとする。
- 2 手すりは、格子やガラス等、見通しの確保に配慮した形状や材質とする。
- 3 聴覚に障がいのある人や視覚に障がいのある人のための客席には、文字情報を表示する小型ディスプレイ等や、演劇や映画等の字幕を表示したり、音声ガイドにより情報が得られる設備を設置する。

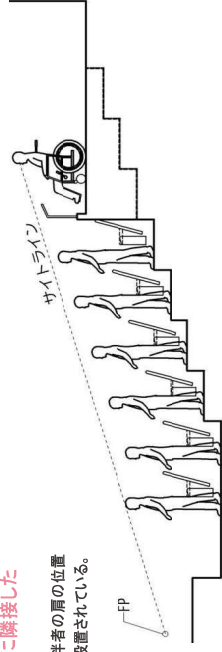


車いす使用者用客席に隣接した
同伴者席

車いす使用者用客席と同伴者の肩の位置が合つよう、横に隣接して設置されている。



手すりがあっても、前方の観客が立ち上がりつても、ステージの様子がはつきり見える。



【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/13.劇場・遊技場 P162～

音声
コード

音声
コード

みんなが楽しめるお店って？

入しやすい入口
通りやすい通路

≫ 自動の引き戸はだれでも入りやすい。
≫ 車いすに乗ったままでも通りやすい幅で、周囲に商品が積まれたりして通りづらくない。
≫ 休憩のためのスペースやベンチがあるとゆっくり楽しめる。

見たいものを 手にとりやすい

≫ 棚やラックは、高さや奥行きを考え、商品を手に取り易くする。
≫ 試着室が広いと誰でも使いやすく、介助もしやすい。

座りやすい座席

≫ 座席が固定式だけだと、自由に姿勢を変えることができない、車いすの人は座りにくい。またサポートがしづらい。

安心して買い物したい。

- 1 カートや荷物が邪魔で、インターホンに近づけず呼び出ができない。
- 2 白杖で床面の障害物には気づけても、腰や胸の高さにある出っ張りには気づきにくく、出っ張った部分に顔や体をぶつける。
- 3 災害時や緊急時には、出っ張った物に気づかず転倒したり、避難の妨げになる。

移動のしやすさ

こうして

解決！

入しやすい入口、通りやすい通路

- 1 店舗の出入口に設けるインターホンの周囲には、カートや搬入商品等の保管場所を設けず、利用者が容易にアクセスできるようにする。
- 2 出入口には自動ドアを設置し、段差をなくして十分な幅を確保するとともに、滑りにくい床材を使用し、わかりやすい案内表示を設ける。
- 3 通路に設ける設備機器・備品（消火器、棚等）は、壁から出っ張らず、視覚に障がいがある人の歩行の妨げにならないよう配慮する。
- 4 長い通路や広い空間には、歩行に困難を感じる利用者の負担軽減のため、休憩できるベンチ等を設置する。



会計カウンター

裏側には、出入口・エレベーターのインターホンに対応した受話器があり、必要に応じて従業員がサポートする。



ゆとりある通路

通路の有効幅は115cm程度と、車いす使用者が通行しやすい幅員を確保。



可動式の椅子席

可動式の椅子席となっており、テーブル・備立も動かすことができる。

音声
コード

音声
コード

【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/14. 店舗内部 P173～

こんなベビー休憩室あったらいいな！

プライバシーを確保し安心して使える
 区切られた空間にして、カーテンやついたて、鍵の付いた扉などでプライバシーを確保する。
 管理者の目の届く位置にあると安心。

使いやすい家具やレイアウト

充分なスペース、様々な年齢の子どもにも対応できるよう多様な設備があることよい。
 環境に敏感な赤ちゃんへの音・光・空調の配慮も必要。（乳幼児に照明の光が直接目に入らない）

パパもママも使える

パパの哺乳瓶による授乳にも配慮。
 パパや兄弟も一緒に使えるような工夫があると使いやすい。

赤ちゃんとお出かけは大荷物！

おむつ、着替え、ミルク（哺乳瓶・お湯）、タオル、ガーゼ、母子手帳、保険証、抱っこ紐…「もしも」に備え始めると、荷物はどんどん増えてしまいます。荷物を置いて、おむつやおしりふき、ビニールぶくろなどをちゃんと揃えてから、落ちついておむつを替えられるよう、おむつ交換台の脇には棚が必要です。

ママのバックは赤ちゃんグッズでぎっしり



音声コード

ベビー休憩室

授乳・換乳スペース

・ベビーカーのまま入れる広さが必要。

仕切り

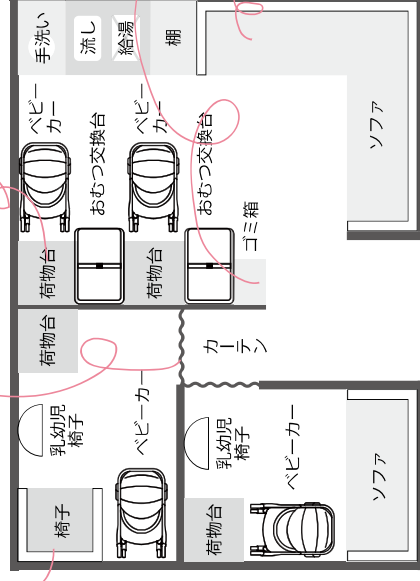
・授乳エリアへ男性が入れないようにドアを設置すること。
 ・使用状況がわかるようにする。

荷物置き台

・大きいめバックがおけること。
 ・衣類を掛けるためのフックやハンガーも設置する。

授乳するためのいす

・肘掛や背もたれのついた椅子や長椅子を置く。



自販機

・おむつやおしりふき、離乳食など

おむつ専用ゴミ箱

・使用済みのおむつを持ち歩かなくいいように設置する。

順番待ちや休憩のためのソファ

ソファ

・離乳食を食べさせた後、男性が人工乳を与えたり出来るように設置する。



おむつ交換台



ベビー休憩室

【技術的基準 参考文獻】
 高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準 第2章 単位空間等の設計/15.ベビー休憩室 P184 ~

音声コード

みんながすばやく避難するためには？

安全に 速やかに 避難できること

- 特別な避難経路でなく、普段利用する経路だと速やかに避難できる。
- 火災等の火元から離れて避難できるよう2方向以上の避難経路を確保する。

誰も 取り残さないこと

- 全ての利用者に非常事態を速やかに伝達できるようにする。
- 視覚に障がいがある人、聴覚に障がいがある人、外国人などへの伝達に工夫が必要。
- 避難経路の案内表示や誘導用設備は全ての人にわかるようにする。

支援が必要な人 への十分な サポート

- お年寄りや障がいのある人等の配慮が必要な人の避難は特にソフト面の対応と合わせて計画する。
- 平常時の避難計画では、配慮が必要な人への対応も考えておく。
- 普段からの施設職員等への教育や、施設利用者への事前の周知も必要。

ホッペ

光と文字で、命をつなぐ防災へ。

スマートフォン普及で、災害情報の入手は以前より容易になりました。しかし、瞬時の危険を知らせる「音」は、依然として私たちには届きません。地鳴りやサイレン、切迫した叫び声が聞こえず、逃げ遅れる恐れが常にあります。避難の道のりや、たどり着いた避難所でも、情報の壁は立ちます。「こっちへ逃げる！」という誘導や、避難所内での「食料の配給です」「受付はこちら」といった重要な指示は、ほとんどが音声のみで行われるからです。周囲の動きを見て推測するしかない私たちは、集団の中で孤立します。命をつなぐためには、音声に頼らない、光や文字による「見て分かる誘導」が不可欠です。

ひとりでも
避難できる？

- 1 急ぐと、そのことだけに気を取られ、まわりの状況がみえなくなる。
- 2 避難の選択肢が限られ、手伝ってもらわないと避難ができない。
- 3 避難する方向がわかりにくい。

こうして

解決！

移動のしやすさ

安全に速やかに避難できること

- 1 段差は、お年寄りや、障がいのある人等には通行の支障となり、特に緊急時にはより深刻な障害となるため、避難経路には段を設けないこと。
- 2 車いすの人も通れる幅のバルコニーを連続して設置する。
- 3 階段による垂直移動が困難な利用者の安全の確保に配慮し、安全に救助を待つための一時待避スペースをつくる。
- 4 避難誘導を補完するため、視覚障がい者誘導用ブロックや手すりを設置する。



避難ルートマップ

現在地から避難場所までのルートを、わかりやすく表示。外国人にもわかるよう英語を併記。

避難誘導用照明内臓型手すり

火災時に避難方向が分かるよう、火災報知機と連動し、避難方向に向かって光が点滅するようになっている照明。（手すり下に埋め込み）

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/16. 避難施設・設備 P188 ~

音声
コード

音声
コード

何が起きているか
状況を把握できる？

- 1 日本語が理解できず、災害情報やどこに避難すれば良いのかわからず行動できない。
- 2 複雑で情報多かつたり、早口の放送では理解が難しい。
- 3 音声による避難指示が聞こえず、避難のタイミングを逃す。
- 4 周囲の状況がわからず不安で動けない。

2
可読性
視覚化

こうして
解決！

誰も取り残さないこと

- 1 誰もが必要な情報にアクセスできるよう、文字・音声・映像・図などさまざまな方法で災害情報を発信する。
- 2 デジタルサイネージやスマートフォンアプリ等を活用し、避難誘導等の多言語化・文字等により視覚化する。
- 3 施設や状況に応じて、外国人や障がいを持つ人の特性に配慮し、個別の対応が出来るようにしておく。
- 4 視覚に障がいがある人、聴覚に障がいがある人だけでなく、誰にとっても有効な光走行式の緊急避難時の誘導システムを設置する。

いろいろな国のことばや絵を使って、わかりやすく伝えましょう！

外国から来た人や、体に不自由がある人がたくさん使う場所では、地しんや火事などのときに、みんながすぐに知られるように、『あぶないよ！』ってすぐに知らせることが大切です。



【出典先：消防庁 / 外国人来訪者や障害者等の安全な避難誘導のために。】

音声
コード

避難施設・設備

- 1 赤ちゃんと一緒だと荷物が多くて、避難に時間がかかってしまう。
- 2 車いすに乗ったまま移動できる避難経路が分らない。
- 3 非常時には、どう行動していいかわからなくなりそうが不安。

避難しなきゃいけないの
は分かるけど・・・

3
心の
バリアフリー

こうして
解決！

支援が必要な人への十分なサポート

- 1 施設管理者は、円滑な災害情報の伝達や避難誘導を行うために、必要な計画を作成し、施設の従業員に対する教育・訓練を実施する。
- 2 避難経路等に関する情報を掲載したホームページやパンフレットを活用し、情報を予め周知する。
- 3 予め周辺施設や自治会等との避難時の協力体制について決めておく。

ホンネ

「やさしい日本語」を意識してみませんか？

「英語を話せば外国人とコミュニケーションがとれる」とは、なかなかいかないかもしれません。

県内を訪れる外国人観光客や岩手に住む外国人の多くがアジア（＝非英語圏）の出身です。そんなときにコミュニケーションを取るには、「やさしい日本語」が役立つかもしれません。「やさしい日本語」は、日本語を学び始めの人に伝わりやすいように配慮した日本語です。災害のときも、「避難して」を「逃げて」、「高台に避難してください」を「高いところに逃げてください」とすると、より多くの外国人に伝わります。

英語では？ 英語も同様です。非英語圏の人には、難しい英単語を使うよりも、やさしい日本語の簡単な言い回しにしたほうが伝わるでしょう。「Evacuate（避難して）」は知らなくても「Escape」や「Run away」（どちらも「逃げて」の意）なら伝わるかもしれません。非常時には、「伝える」ことを優先させた「易しい」＝「優しい」言葉遣いを心がけてみてください。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 16. 避難施設・設備 P188 ～

音声
コード

みんながスムーズに移動できる歩道って？

同じ経路で
移動ができる

≫ お年寄り、障がい者等の移動制約者も含めて誰もが同じ経路で移動することができる。

様々な
移動手段で
移動ができる

≫ 歩行、車いす、自転車等、移動手段による制約を受けずに移動することができる。

安全に
移動ができる

≫ 互いに配慮し合い、冬期でも安全に移動することができる。

心のバリアフリー（道路の巻）

視覚障がい者誘導ブロック上への駐輪など通行に支障となるような利用は控え、障がいのある人等の歩道利用を妨げないようにしましょう。
通行にあたり困っているお年寄りや障がいのある人がいたら手助けをしましょう。

移動が困難で
使いにくい？

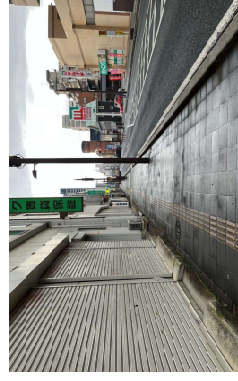
- 1 幅員が狭く、すれ違いができない。
段差が大きいことや、専用通行帯が無いため、車いすや自転車の通行がしづらい。
- 2 通行時に衝突や転倒の恐れがあり通行が危険。

こうして

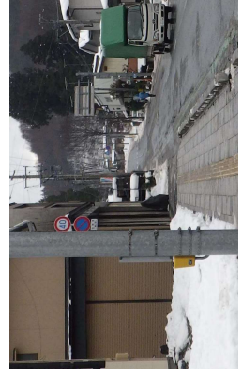
解決！

みんなが安全に移動できる歩道

- 1 交通量や車いす使用者等を想定し、必要な幅を確保した歩道の整備を進める。
- 2 視覚障がい者用誘導ブロックを用いた歩道の整備を進める。
- 3 段差の小さい構造を採用し、歩行者と自転車の通行帯を区分するなど多様な移動手段に配慮した歩道整備を進める。
- 4 自転車のマナー、ルールを周知徹底すると共に自転車と歩行者の通行空間の分離を進める。
- 5 除雪や消融雪装置の稼働を適切に組み合わせるなど冬期の安全な移動を確保。



必要な幅員を確保する。
視覚障がい者用誘導ブロックの設置。



除雪により通行スペースを確保。

音声
コード

【技術的基準 参考文献】
・移動等円滑化のために必要な道路の構造及び旅客特定車両停留施設を使用した役務の提供の方法に関する基準を定める省令
・道路の移動等円滑化に関するガイドライン

音声
コード

みんながスムーズに移動できる 立体横断施設って？

同じ施設で
移動ができる

≫ 高齢者、障害者等の移動制約者も含めて誰もが
同じ経路で移動することができる。

様々な
移動手段で
移動ができる

≫ 歩行、車いす、自転車等、移動手段による制約を
受けずに移動することができる。

安全に
移動ができる

≫ 互いに配慮し合い、地下や冬期でも安全に移動する
ことができる。

心のバリアフリー（道路の巻）

視覚障がい者誘導ブロック上への駐輪など、通行に支障となるような利用は控え、
障がいのある人等の歩道利用を妨げないようにしましょう。
通行にあたり困っているお年寄りや障がいのある人がいたら手助けをしましょう。
また、自転車は必ず降りてから通行するようにしましょう。

移動が困難
つかいにくい

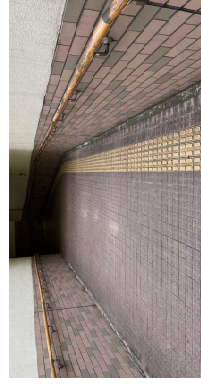
- 1 階段の勾配が急で、お年寄りや障がいのある人が利用しにくい。
- 2 階段の段差により、車いす、自転車、ベビーカーの通行が困難。
- 3 通行時に転倒や転落の恐れがあり通行が危険。

こうして

解決！

みんなが安全に移動できる 立体横断施設

- 1 エレベーターの設置や階段の勾配を緩くするなど、利用しやすい立体横断施設
の整備を進める。
- 2 視覚障がい者用誘導ブロックの整備を進める。
- 3 傾斜路の設置などにより多様な移動手段に配慮した整備を進める。
- 4 消融雪装置の稼働等により冬の安全な移動を確保。
照明設備の適切な設置により安全な移動を確保。
- 5 自転車は降りて通行するよう、自転車のマナー、ルールを周知徹底する。



視覚障がい者用誘導ブロックの設置。



スロープの設置。

音声
コード

【技術的基準 参考文献】
・移動等円滑化のために必要な道路の構造及び旅客特定車両停留施設を使用し
た役割の提供の方法に関する基準を定める省令
・道路の移動等円滑化に関するガイドライン

音声
コード

みんなが楽しく遊べる公園って？

- 》遊びの要素が豊富で、冒険や挑戦を促し、みんなにとって魅力的な遊びができる。
- 》それぞれのペースで、みんなが自分に合った遊びを楽しむことができる。
- 》多様性を認めながら、みんなと自然に関わることができる。

みんなにとって楽しい遊び場

- 》出入口および駐車場から目的地までの動線が、明確でわかりやすい。
- 》移動に困難がある人でも、安全にストレスなく移動できる。
- 》みんなが使いやすい公園施設であるための配慮がなされている。

安全に移動できて使いやすい

- 》案内板や標識がわかりやすく、誰でも容易に理解できる。
- 》公園の情報を事前に、わかりやすく知ることができる。
- 》必要な人が、必要な施設を、利用しやすい。

誰もが利用しやすい

心のバリアフリー（公園の巻）

公園は、誰もが安全に楽しく利用できる場であることが大切です。年齢や障がいの有無にかかわらず、同じ空間で一緒に楽しめる環境が求められます。障がいのある方や付添の方が容易に移動できるように物理的環境を整え、安心して過ごせるよう危険を取り除きます。また、多様な遊びを個々に選べるよう配慮することで、気軽に集い、自然と人と関わる力を育む場となるよう設計しましょう。

音声
コード

はじめに

建築物
移動空間

建築物
利用空間

道路

市街地

当事者参画

楽しめない
公園って？

- 1 遊具に魅力を感じない。
- 2 障がいがあっても楽しめるか、不安。
- 3 誰でも来やすい場所になっていない。

こうして

解決！

1

公平性

みんなにとって楽しい遊び場

- 1 遊び場はみんなですつくり、育てることが重要。子どもをはじめとした多様な主体に意見を聴き、対話しながら遊び場づくりを共に進めていく。
- 2 多様なニーズに配慮し、みんなが公平に遊びを楽しめるインクルーシブな公園づくりを推進する。
- 3 障がいの有無にかかわらず、みんなが遊べる公園は「心のバリアフリー」という意識を育てる場所となる。

大型
複合遊具



みんな
で
遊べる
ブランコ



いろいろ
ブランコ



ブランコや音の遊具も複数配置し自分にあった遊びを選べる

音の遊具
(太鼓)



音の遊具
(鉄琴)



自分にあった遊びが選べ、みんなと一緒に楽しめるよう配慮された遊具

音声
コード

【技術的基準 参考文献】
都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン
みんなが遊べる、みんなが育てる都市公園の遊び場づくり参考事例集

公園に行って
困ることって？

- 1 園路が途切れていて移動が大変。
- 2 園路の幅が狭く、段差があって移動できない。
- 3 車いすだと行きたい場所まで遠回りしないといけない。

こうして

解決！

2

使いやすさ

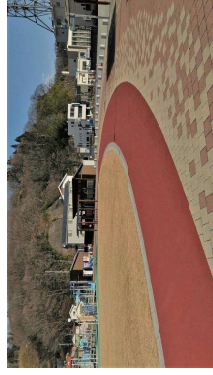
安全に移動できて使いやすい

- 1 お年寄り、障がい者等が円滑に移動できるよう連続性の確保に努める。
- 2 園路の幅を確保し、勾配を最小限にして段を設けないなど、配慮する。
- 3 園路は出入口および駐車場から主要な公園施設までをわかりやすいルートで、遠回りにならないよう設定する。



移動等円滑化園路

出入口や駐車場から主要な公園施設まで簡単にアクセスできる



利用しやすい園路

園路は連続しており、十分な幅、緩やかな傾斜路で、段を設けない



遠回りにならない

園路に近接した駐車場の配置

※写真 うみどり公園（宮古市）

音声
コード

公園に行きたい
けど・・・

- 1 使いたい施設がどこにあるのかわからない。
- 2 障がいがあって、設備が整っているか、不安。

こうして

解決！

3

わかりやすさ

安心して利用できる

- 1 案内や表示をわかりやすくし、点字表示等を使ってみんなが理解できるように配慮する。
- 2 利用の可否を判断できるよう、公園施設の情報を提供する。



見やすくわかりやすい案内や表示

絵や写真に加え、ピクトグラムや点字でわかりやすく表示



公園施設の情報提供

リーフレットで遊具の情報を提供（ホームページでも閲覧可）

うみどり公園
（宮古市）の
詳細はコチラ



音声
コード

【技術的基準 参考文庫】
都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン
みんなが遊べる。みんなが育てる都市公園の遊び場づくり参考事例集

当事者参画の基本原則

公平性	多様な当事者の参画 丁寧な議論	透明性	意見への対応の可否、 その理由など	効果検証	意見、プロセス、理由、 得られた効果
-----	--------------------	-----	----------------------	------	-----------------------

当事者参画の企画

■ 企画の目的	当事者の意見やニーズを反映した施策・サービスの立案・改善を図り、政策形成、サービス改善、地域づくりなどにおいて、実効性と納得感のある成果を得る。				
■ 参画方法の検討					
手法の選定	ワークショップ、アンケート調査、ヒアリング（個別・グループ）、共同企画会議（コ・デザイン型）				
実施形式	オンライン / 対面 / ハイブリット				
意思決定への関与度	情報提供のみ、意見徴収、共同決定（合意形成プログラムの導入）				
■ 参加者の人数					
当事者の定義	利用者、住民、関係団体、支援者など				
多様性の確保	年齢、性別、障がいの有無、文化的背景、立場など				
招集方法	公募（広報媒体の活用）推薦（関係団体・自治体等から）既存ネットワーク（地域コミュニティ、支援団体など）				
■ 工期・予算の確保					
スケジュール	準備期間（企画設計、参加者募集、資料作成）、実施期間（参画イベントの開催）、フォローアップ（結果の共有、施策への反映）				
予算項目	人件費（ファシリテーター、事務局）、会場費（対面の場合）、資料作成費（印刷、翻訳など）、謝礼・交通費（参加者の配慮）				
資金調達	助成金（自治体、民間財団）、外部資金（企業協賛、クラウドファンディングなど）				

〈参加のタイミングと期待できること〉

1 基本構想	建物をつくるとき、はじめに“みんなが使いやすいようにしよう”って決めておくと、そのあとずっとその考えを大事にして作ることが出来ます。
2 基本計画	みんなが使いやすいようにするために、どこになにを作るか、どれくらいの大きさにするか、どんな形にするか、はじめの計画のときにきちんと考えておくことが大切です。
3 基本設計	設計図を見ながら、建物の作り方や部屋の並び方、どんな道具を使うかを決めるときには、車いすの人や小さい子ども、お年寄りも使いやすいとするためには「もっとこうしたいいいかも！」って考え、設計図に取り入れます。
4 実施設計	「どんな材料を使うか」「どのくらいの大きさにするか」「どこに何をつけるか」など、これまでみんなで考えてきた内容をみなおし、“みんなが使いやすい”建物を作るための最後の設計図に取り入れます。
5 工事中	設計に取り入れた内容が、頭の中で思っていた形やデザインとなっているか確認し、調整します 例えば、案内サインの色や文字の大きさ、取り付け高さなど。
6 完成後	これまでのみんなで作ってきた工夫が、きちんと使われているかを見て、もっと使いやすくするためにできることがあるか、考えることが大切です。



音声
コード

【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準 別冊
建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン

音声
コード

当事者参画の準備・運営



■ 当事者参画等の方法

ワークショップ	使う人と作る人が話し合いながら、どんな施設にするかを決めることで、おたがいの考えをわかり合う場。みんなが集まって話すことで、考えがらがってても、相手の話を聞いて、いいアイデアを出し合えます。
現地で施設の見学 類似施設の見学	実際に施設を使ってみることで、図だけじゃわからない使いやすさを確かめられ、“こうしたらもっといい”ってアイデアを出せるし、作る人もその気持ちをやっと理解できるから、わかりやすい。
アンケート ヒアリング	アンケートは、いろいろな人の考えや希望を広く集めることができます。ヒアリングは、アンケートでわかったことをもっとくわしく聞いて、はっきりした意見を知ることができます。
パブリック コメント	インターネットで施設の計画を見てもらって、みんなの意見を集めることができますよ。いろいろな人の考えを広く知ることができます。
説明会	施設の説明を、資料や図、模型を使ってわかりやすく伝えて、みんなの質問に答えることで、本当の気持ちや意見を聞くことができます。

■ 参加者の人選

〈当事者の依頼方法〉

- 障がいのある人・お年寄り・子育て等の団体等へ依頼
- 公募等その他の方法

〈運営支援者(ファシリテーター)の選定〉

- 学識経験者、建築士、NPO職員、コンサルタント等

音声
コード

※「スパイラルアップ」とは、ユニバーサルデザインの概念の一つで、段階的かつ継続的に改善を重ねるプロセスを指す。

■ 事業者が配慮すべきこと（当日に向けた準備）

〈ソフト面の配慮〉

- 誰にも分かりやすい情報の提供
色分けされた図面、模型、イメージ図等
- 視覚に障がいがある人への情報保障
音声読み上げ、模型、素材サンプル等
- 聴覚に障がいがある人への情報保障
手話・文字通訳等

〈ハード面の配慮〉

- まち歩きの際の肢体不自由者、視覚に障がいがある人への移動支援
バリアフリートイレ、車いす使用者用駐車の設置

■ 当日の運営

1 当日のプログラム	① 計画や設計等の概要説明 ② 検討テーマ及び論点の説明 ③ グループワーク （類似施設の点検・検証 UD 水準向上のための検討、代替え策の検討） ④ 意見の集約（提案の発表）
2 グループワークの 進め方	・ 小人数グループにわかれ、みんなの意見をポストイットに記入する。 ・ 意見を整理し、取りまとめ、共有する。
3 ファシリテーターの 配置と役割	・ 当事者参画が円滑に行われるよう運営する。 例えば、意見が一致しない場合など、代替案を示し合意形成させるように努める。
4 意見の集約	参加者の相互理解や一定の合意形成を目指すこと。

■ 事後検証とスパイラルアップ

竣工後に当初の目的や効果が発揮できる施設環境となっているのか、検証を行う場を設け、運用上の工夫や次の計画、改修に活かす。

■ 参画後の取り組み

【技術的基準 参考文庫】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準 別冊
建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン音声
コード

【バリアフリー】	日常生活や社会生活の障害となる、今ある「バリア（障壁）」を取り除いて行こうとする考え方。
【ユニバーサルデザイン】	お年寄りや障がいのある人等が「特別な存在」のではなく、多様な方々によって社会が構成されていることこそが当然との観点に立ち、 ☆特定の人々を特別扱いするものでなく、全ての人を対象とすること ☆はじめからバリアをつくらない取組を目指すこと という考え方。
【インクルージョン】	社会において多様な人材が尊重されながら共存していくという意味の言葉。
【車いす使用者】 くるまいすしようしや	何らかの理由で歩行が困難または不可能なため、移動手段として車いすを必要とする人。
【視覚に障がいのある人】 しかくにようがいがあるひと	視力や視野に障がいがあり、見ることが不自由、または不可能になっている状態の人。
【ロービジョン】	眼鏡やコンタクトレンズなどの通常の矯正しても視力や視野が十分に回復せず、日常生活に支障がある状態を指します。失明ではなく、見えるけれど制約がある視覚障がいです。
【聴覚に障がいのある人】 ちようかくにようがいがあるひと	音や声を聞く機能（聴覚）に、永続的または長期的な障がいがあり、日常生活や社会生活に制約を受ける人。
【内部障がいのある人】 ないぶしょうがいがあるひと	心臓、腎臓、呼吸器、膀胱・直腸、小腸、免疫、肝臓など、体の内部にある臓器に障がいがある人。
【オストメイト】	オストメイトとは、産まれた時から肛門がない人や、大腸・直腸・膀胱などの病気の治療、交通事故などのケガで手術をした人が腹部にストーマ（ギリシャ語で口）と呼ばれる排泄口を造設した人。
【発達障がいの人】 はったつしょうがいのあるひと	自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいその他これに類する脳機能の障がいであってその症状が通常低年齢において発現するもの。
【知的障がいのある人】 ちてきしょうがいのあるひと	同年齢の子どもと比べて、「認知や言語などにかかわる知的機能」の発達に遅れが認められ、「他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについての適応能力」も不十分であり、特別な支援や配慮が必要な状態。
【性的マイノリティ】 せいてき (LGBT等) えるじーびーていー	生物学的性、性自認、性的指向が多数派のあり方とは異なる人々のこと。 レスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー（LGBT）等の人々を含む。

音声
コード

【優先駐車区画】 ゆうぜんせんちゆうしやくかく	すべての人が公平に、安全かつ快適に利用できるよう、特定の利用者のニーズに応じて設けられた駐車スペース。
【パーキング・パーミット 制度】	特別な理由がある人に「利用証（パーミット）」を発行し、車に表示してもらうことで、優先駐車スペースを正しく使えるようにする制度。
【誘導用設備】 ゆうどうようせつび	利用者が迷わず、安全に目的地へ到達できるよう、視覚・聴覚・触覚などの情報を活用して案内する設備。
【避難階段】 ひなんかいだん	災害時に建物内の人が迅速かつ安全に屋外へ避難できるよう設けられた階段。
【アルコーブ】	壁面や廊下の一部を後退させて設ける、半独立した小空間。
【自動着床機能】 しどうちゃくしよくきのう	停電や異常時に、エレベーターが最寄り階まで自動的に移動し、ドアを開放して利用者を安全に退避させる機能。
【地震時等管制運転装置】 じしんじどうかんせいいうんてんそうち	地震やその他の異常時に、エレベーターを管制運転モードに切り替え、利用者を安全に避難させるための装置。
【傾向型段差解消機】 けいけいようがたんだんさいかいしようき	段差を解消するために、傾斜したプラットフォームを昇降させる装置。車いす使用者が乗ったまま段差を移動できるよう設計されている。
【鉛直型段差解消機】 えんちようがたんだんさいかいしようき	段差を解消するために、水平を保ったプラットフォームを垂直に昇降させる装置。車いす使用者が乗ったまま段差を移動できるよう設計されている。
【ピクトグラム】 びくどぐらむ	「言語に依存せず、視覚的に情報を伝えるためのシンブルな図記号」のこと。国際的に共通理解できるように設計され、公共施設や交通機関、案内標識などで広く使われている。
【デジタルサイネージ】	表示と通信にデジタル技術を活用して平面ディスプレイやプロジェクタなどに映像や文字を表示する情報・広告媒体である。
【FM補聴システム】 えふえむほろよう	補聴器や人工内耳を使用する人が、話し手の声をより明瞭に聞けるようにする音声伝送システムです。話し手の声を FM 電波で直接補聴器や受信機に送信し、周囲の雑音を減らして聞き取りやすくなります。
【ヒアリングループ】	磁気を生じさせるワイヤーを輪のように床面に配置し、聴覚障がい者用補聴器に音声を伝える構材。
【集団補聴設備】 しゅうだんほろようせつび	聴覚に障がいのある人が複数人で同じ空間にいる場合に、話し手の音声を放送を明瞭に聞き取れるようにする音声伝送システムです。話し手や音源の音声を、補聴器や専用受信機に直接届けることで、雑音や距離の影響を減らし、聴覚に障がいがある人が複数で同時に利用できます。

音声
コード



障がい者のための 国際シンボルマーク

車いす使用者に限らず、障がいのある全ての人が利用できる建物や施設を示す世界共通マークです。



オストメイトマーク

オストメイト(人工肛門、人工膀胱をつけた人)を示すマークです。オストメイト対応トイレなどに使用されています。



ハート・プラスマーク

身体内部に疾患のある人のためのマークです。外見からわかりにくいため、誤解をうけることがあります。そのような人の存在を視覚的に示し、理解と協力を広げるために作られたマークです。



ベビーカーマーク

ベビーカーを利用しやすい環境づくりに向けて作成されたマークです。公共交通機関や公共施設などのエレベーター、鉄道やバスの車両スペースなどに表示され、安全な使用方法を守ったうえでベビーカーを折りたたまずに利用できるなど、ベビーカーを安心して利用できる場所・設備をあらわしています。



視覚障がい者のための 国際シンボルマーク

視覚に障がいのある人のための世界共通マークです。信号が青になったことを音声で知らせる音響装置、付信号機など、視覚に障がいのある人が利用する機器等に表示されています。



マタニティマーク

交通機関での座席の譲り合いや受動喫煙の防止など、妊産婦にやさしい環境づくりの一環として厚生労働省が発表したマークです。



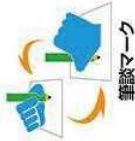
ほじょ犬マーク

身体障がい者補助犬同伴の啓発のためのマークです。公共施設や交通機関、スーパーやレストランなどの民間施設では、身体障がい者補助犬を同伴するのを受け入れる義務があります。



耳マーク

聴覚に障がいのある人のための国内で使用されているマークです。受付カウンターなどに掲示してあります。他にもコミュニケーションマークとして「手話マーク」などがあります。



運転者車両標識

障がい者のある人や、70歳以上のお年寄りが車を運転するときに車に表示するマークです。



高齢運転者標識



身体障がい者標識

聴覚障がい者標識

身体に障がいのある人が運転する自動車であることを周囲に示すため、道路交通法に基づき表示するマークです。

聴覚に障がいのある人が運転している自動車であることを周囲に示すため、道路交通法に基づき表示するマークです。